

2021年度
(第38回)

授業公開講座受講案内

神戸松蔭女子学院大学

目 次

■ ■ 概 要	2
■ ■ 申し込みのきまり	2
■ ■ 受講について	3
■ ■ 提供科目一覧表	4
■ ■ 授業内容・授業計画	7
■ ■ 時間割	66
■ ■ 注意事項	67
■ ■ 本学からのお知らせ	68
■ ■ 学内案内図	69
■ ■ 本学の位置及び交通機関	70

授業公開講座

■ 概要

神戸松蔭女子学院大学では種々の公開講座を開き、広く一般の方々によき学習の場を提供したいと願っております。その中で、本学の学生のために開講されている講義の一部を学生の受講に支障のない範囲で開放しているのがここにご紹介する「授業公開講座」です。受講者は学生と机を並べて共に学ぶこととなります。奮ってご参加いただきますようご案内申し上げます。

● 受講資格

満18歳以上の女性(2021年4月1日現在)

● 授業期間

前期:4月8日(木)～8月6日(金)

試験および補講・補習日 7月24日(土)、7月30日(金)～8月6日(金)

後期:9月25日(土)～12月24日(金)、2022年1月8日(土)～2月9日(水)

試験および補講・補習日 2022年1月27日(木)、31日(月)2月1日(火)～9日(水)

※ 期間中、学校行事、講師の都合等で休講となることもありますのでご了承ください。

休講予定:11月19日(金)3～5限(大学祭準備のため)、11月20日(土)終日(大学祭)

12月10日(金)1～2限(クリスマス礼拝・祝会) ※事前にご確認ください。

※ 試験および補講・補習日は必ずしも授業が行われるわけではありません。

● 受講料

半期1科目/10,000円(本学関係者は5,000円)

※ 本学関係受講者とは、神戸松蔭女子学院大学在学生の母、及び神戸松蔭女子学院大学・短期大学部(短期大学・女専も含む)卒業生です。

■ 申し込みのきまり

● 申し込み期間

締切日:3月15日(月)[必着]

後期科目につきましても上記期間にお申込みください。

※ 締め切り後の到着分は無効となりますのでご注意ください。

● 申し込み方法

下記4点をご送付ください。

1) 授業公開講座申込書(ダウンロード可)

※ 太枠内を漏れなくご記入ください。

2) 証明写真(縦4cm×横3cm・カラー)

※ 証明写真以外は受け付けません。ご自分で撮影、プリントアウトしたものは不可。

※ 写真裏にお名前をご記入ください。

3) 授業公開講座受講生証 発行台紙(ダウンロード可)

※ 氏名欄にご記入の上、2)の証明写真をお貼りください。

4) 84円切手

送付先:〒657-0015

神戸市灘区篠原伯母野山町1-2-1

神戸松蔭女子学院大学 教務課 授業公開講座係 宛

※ 個人情報履修にかかわる事務手続以外に使用いたしません。

■ 受講について

● 受講者決定	募集人数を上回る申し込みがあった場合、受講者の決定は抽選により行います。その結果は3月末日までに封書（授業公開講座科目決定通知）でお知らせいたします。 正規学生の受講者が3名以下の場合には不開講となります。（5月上旬決定）
● 受講料納入	受講料は、「授業公開講座科目決定通知」に記載の振込先に振り込んでください。本学窓口での受け付けはできません。 1) 振込期間：4月1日(木)から4月5日(月)まで（期間厳守をお願いします。） 2) 後期開講科目についても同じ期間内に振り込みをお願いします。 3) 振り込まれた受講料はお返しできません。 正規学生の受講者が3名以下で不開講となった場合（5月上旬決定）は、受講料を返金いたします。 4) 期間中に手続きをされない場合は、受講取消とみなします。
● 受講生証の発行と手続き期間	本館3階教務課窓口にて次の 1) 2) をご持参ください。引き換えに授業公開講座受講生証、授業公開講座受講のてびきをお渡しします。 1) 本人確認書類 運転免許証、パスポート等の氏名、生年月日、現住所が記載されているもの。 2) 受講料の領収書（銀行利用明細） 3) 手続期間 4月8日(木) から 4月14日(水)まで 9:00～17:00（日曜・祝日は取扱いません。） ※ 前期科目をお申し込みの方は 最初の授業時間前に教務課窓口にお越しください。 （システム登録の手続きに20分ほどかかります。）
● 新型コロナウイルス感染症への対応について	新型コロナウイルス感染症予防の徹底をお願いいたします。 登校に際しての注意事項 (1) 登校前に必ず検温し、発熱や風邪の症状がある場合は登校しないでください。 (2) 登校時には所定の場所で手指消毒と検温し、平熱であることを確認してください。 ※平熱を上回る場合は2号館1階保健室に行ってください。(37.5℃以上は入校不可) (3) 学内では、必ずマスクを着用してください。 (4) 学内では三つの密(密集、密閉、密接)を避けるよう行動してください。 ウイルスに感染しない、他の人に感染させないための命を守る行動です。 近距離での会話や大声で話すことは絶対に避けてください。 (5) 向かった先々で受講生証の提示を求められることがあります。受講生証は必ずお持ちください。 授業に関する注意事項 (1) 2020年度は新型コロナウイルス感染症の拡大のため、授業公開講座は遠隔授業での実施となりました。今年度も一部科目については遠隔授業で実施いたします。各科目の「授業方法」をご覧ください。 (2) 各授業では学習支援システム「松蔭 manaba」を使用いたします。 (3) 遠隔授業を受講する場合はパソコン環境、通信環境を整えていただくこととなります。 (4) 感染状況拡大や緊急事態宣言が発令された場合は、対面授業から遠隔授業に変更する可能性があります。 その場合は本学学生と同様「松蔭ポータル」や学習支援システム「松蔭 manaba」で連絡します。

■ 提供科目一覧表

授業科目名	開講区分	対象学年	担当者	曜日・時間		授業開始日	募集人数
キリスト教の歴史	後期	2-3	木鎌 耕一郎 教授	火曜	14:50~16:20	9月28日	5
キリスト教と諸宗教	前期	2-3	木鎌 耕一郎 教授	火曜	13:10~14:40	4月13日	5
社会心理学	前期	1-2	土肥 伊都子 教授	水曜	16:30~18:00	4月14日	5
人間関係論	後期	1-2	土肥 伊都子 教授	水曜	16:30~18:00	9月29日	5
現代の教養Ⅱ (進化から考える人間らしさ)	前期	1-2	待田 昌二 教授	月曜	9:00~10:30	4月12日	5
文化人類学	後期	2-3	松岡 靖 准教授	木曜	9:00~10:30	9月30日	5
フランス語ⅡA	前期	2	打田 素之 教授	水曜	9:00~10:30	4月14日	5
フランス語ⅡB	後期	2	打田 素之 教授	水曜	9:00~10:30	9月29日	5
ビジネス中国語A	前期	2-4	古川 典代 教授	火曜	10:40~12:10	4月13日	5
ビジネス中国語B	後期	2-4	古川 典代 教授	火曜	10:40~12:10	9月28日	5
韓国語ⅡC	前期	2	金 智英 准教授	月曜	9:00~10:30	4月12日	5
韓国語ⅡD	後期	2	金 智英 准教授	月曜	9:00~10:30	9月27日	5
英語学入門A	前期	1	柏本 吉章 教授	火曜	13:10~14:40	4月13日	5
英語学入門B	後期	1	柏本 吉章 教授	火曜	13:10~14:40	9月28日	5
英語コミュニケーション概論A	前期	1	川中 紀子 教授	火曜	14:50~16:20	4月13日	5
英語コミュニケーション概論B	後期	1	川中 紀子 教授	火曜	14:50~16:20	9月28日	5
単語と文のしくみ	前期	3	西垣内 泰介 教授	水曜	10:40~12:10	4月14日	3
英語コンピュータ特論A	前期	2	西垣内 泰介 教授	火曜	13:10~14:40	4月13日	3

■ ■ 提供科目一覧表

授業科目名	開講区分	対象学年	担当者	曜日・時間		授業開始日	募集人数
英語コンピュータ特論B	後期	2	西垣内 泰介 教授	火曜	13:10~14:40	9月28日	3
コンピューティングA	前期	2	P. Spaelti 講師	火曜	10:40~12:10	4月13日	3
コンピューティングB	後期	2	P. Spaelti 講師	火曜	10:40~12:10	9月28日	3
プレゼンテーションの技法A	前期	3	松田 謙次郎 教授	水曜	10:40~12:10	4月14日	5
プレゼンテーションの技法B	後期	3	松田 謙次郎 教授	水曜	10:40~12:10	9月29日	5
アジア文化入門A	前期	2	金 智英 准教授	火曜	14:50~16:20	4月13日	5
アジア文化入門B	後期	2	古川 典代 教授	火曜	14:50~16:20	9月28日	5
音韻・表記の基礎知識	前期	2	黒木 邦彦 准教授	水曜	13:10~14:40	4月14日	5
文法の基礎知識	後期	2	黒木 邦彦 准教授	水曜	13:10~14:40	9月29日	5
社会言語学の基礎	後期	2	田附 敏尚 准教授	金曜	14:50~16:20	10月1日	5
日本語音韻史	前期	3	黒木 邦彦 准教授	金曜	13:10~14:40	4月9日	5
日本語文法史	後期	3	黒木 邦彦 准教授	金曜	13:10~14:40	10月1日	5
日本語教授法応用A	前期	3	池谷 知子 教授	月曜	13:10~14:40	4月12日	8
日本語教授法応用B	後期	3	池谷 知子 教授	月曜	13:10~14:40	9月27日	8
日本文化を学ぶ	後期	1	田中 まき 教授	月曜	10:40~12:10	9月27日	8
古典文学の研究	前期	3	田中 まき 教授	木曜	13:10~14:40	4月8日	8
日本書道史	後期	1	丸山 果織 准教授	月曜	14:50~16:20	9月27日	8
臨床心理学概論A	前期	2	榊原 久直 准教授	金曜	9:00~10:30	4月9日	5

■ ■ 提供科目一覧表

授業科目名	開講区分	対象学年	担当者	曜日・時間		授業開始日	募集人数
心理療法 A	前期	3-4	中村 博文 准教授	水曜	14:50~16:20	4月14日	5
心理療法 B	後期	3-4	榊原 久直 准教授	水曜	14:50~16:20	9月29日	5
心理療法 C	前期	3-4	坂本 真佐哉 教授	金曜	9:00~10:30	4月9日	5
心理療法 D	後期	3-4	小松 貴弘 教授	火曜	13:10~14:40	9月28日	5
障害者・障害児心理学	前期	2-3	榊原 久直 准教授	水曜	16:30~18:00	4月14日	5
青年期の臨床心理学	後期	2-3	黒崎 優美 准教授	水曜	10:40~12:10	9月29日	5
成人期・老年期の臨床心理学	後期	3-4	中村 博文 准教授	月曜	9:00~10:30	9月27日	5
教育・学校心理学	後期	3-4	黒崎 優美 准教授	火曜	10:40~12:10	9月28日	5
対人コミュニケーション論	後期	2-3	待田 昌二 教授	月曜	14:50~16:20	9月27日	5
ジェンダーの心理学	前期	3-4	土肥 伊都子 教授	水曜	10:40~12:10	4月14日	5
子育て支援の心理学	後期	3-4	榊原 久直 准教授	金曜	14:50~16:20	10月1日	5
ファッション史	後期	1	井上 裕之 講師	火曜	13:10~14:40	9月28日	5
ジェンダーとファッション	前期	4	戸田 賀志子 准教授	火曜	14:50~16:20	4月13日	5
阪神デザイン論	前期	2	徳山 孝子 教授	水曜	10:40~12:10	4月14日	10
インテリア史	後期	1	米原 慶子 准教授	火曜	13:10~14:40	9月28日	5
早期英語教育基礎	後期	2	山内 啓子 教授	木曜	10:40~12:10	9月30日	5
個別の教育支援計画論	後期	1	谷川 弘治 教授	土曜	13:10~14:40	9月25日	5
特別支援教育と共生社会	後期	1	谷川 弘治 教授	土曜	14:50~16:20	9月25日	5

キリスト教の歴史

後期 9/28 (火)~

木鎌 耕一郎

火曜 14:50~16:20

授業のテーマ	キリスト教史入門
授業の概要	本講座ではキリスト教の歴史を学ぶ。キリスト教は古代のパレスチナにユダヤ教を母体として生まれながら、はやくも1世紀にはその民族的な枠を脱し、その後二千年の時をかけて数他の文化や言語の壁を越えて世界中に広まった普遍宗教である。その過程で、各地の文化や社会を造りかえると共に、自らも大きな変貌を遂げていった。こうして今日のキリスト教は極めて多様性に富む宗教となっている。キリスト教のこのようなクロスカルチャルな歴史的発展のプロセスを様々な視点から考察していくのが、本講座の課題である。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・聖書の成立史と翻訳の歴史の概要を理解し、説明することができる。(知識・理解) ・キリスト教と文学や映画等の文芸作品とのかかわりを知り、説明することができる。(知識・理解) ・日本におけるキリスト教受容史の概要を理解し、説明することができる。(知識・理解) ・キリスト教史の学びを通じて、諸宗教と異文化への関心を高め、他者への敬意を意識することができる。(態度・志向性)
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション(授業の概要、学習方法、成績評価に関する説明)</p> <p>第2回 聖書の歴史1(旧約聖書の成立、聖書と言語、写本)</p> <p>第3回 聖書の歴史2(アポクリファの成立と特徴)</p> <p>第4回 聖書の歴史3(新約聖書の成立、パウロの書簡、福音書)</p> <p>第5回 聖書の歴史4(聖書翻訳の歴史、ヒエロニムス、ルター)</p> <p>第6回 聖書の歴史5(日本(語)と聖書) 一第1回まとめテスト*</p> <p>第7回 キリスト教と文芸1(西洋文学とキリスト教)</p> <p>第8回 キリスト教と文芸2(日本文学とキリスト教)</p> <p>第9回 キリスト教と文芸3(聖書そのものを描いた映画)</p> <p>第10回 キリスト教と文芸4(聖書のスピノフ映画)</p> <p>第11回 キリスト教と文芸5(キリスト教精神を描いた映画)一第2回まとめテスト*</p> <p>第12回 日本キリスト教史1(フランススコ・ザビエル、大航海時代)</p> <p>第13回 日本キリスト教史2(ルイス・フロイス、『日本史』)</p> <p>第14回 日本キリスト教史3(日本人キリシタン、高山右近、細川ガラシャ)</p> <p>第15回 日本キリスト教史4(明治期以降のキリスト教宣教史)一第3回まとめテスト*</p> <p>*試験は希望者のみ受験。</p>
授業外における学習 (準備学習の内容)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前準備学習:シラバスの各回授業のキーワードを図書やインターネットによって下調べをして、自分なりにノートにまとめる。(学習時間:2時間) ・授業後学習:授業で扱った内容をノートにまとめ、授業内で示した課題に取り組む(学習時間:2時間)
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・講義。一部の授業でグループワークを行なうことがある。 ・毎回 manaba を用いた小テストを行う。 ・学期中に3回の「まとめテスト」を行なう。
履修上の注意	授業回数数の3分の1以上欠席した学生は、原則として不合格とする。
教科書	なし。随時プリントを配布する。
参考書	<p>八木谷涼子『なんでもわかるキリスト教大事典』(朝日文庫)</p> <p>五野井隆史『日本キリスト教史』(吉川弘文館)</p> <p>鈴木範久『聖書の日本語 翻訳の歴史』(岩波書店)</p>

キリスト教と諸宗教

前期 4/13(火)～

木鎌 耕一郎

月曜 13:10～14:40

授業のテーマ	多元時代のキリスト教と諸宗教
授業の概要	国際的な人の移動が日常化し、諸宗教が相接する機会が増えた今日、世界の諸宗教をより良く理解することが不可欠になっている。本講座の目的は世界の主要宗教を概観すると共に、それとの比較を通してキリスト教についての理解を深めていくことにある。まず宗教とは何かを考え、旧新約聖書の信仰を踏まえた上で、キリスト教と共に世界宗教である仏教やイスラム教などを取り上げ、これらをキリスト教と対比する。また、日本人の宗教性にも光を当てる。こうした私たちの生きる「地球村」への理解を深めることも本講座の目的である。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の諸宗教に見られる多様な信仰構造について理解し、説明することができる。(知識・理解) ・日本人の宗教観と日本の宗教の基礎について理解し、説明することができる。(知識・理解) ・ユダヤ教とキリスト教の関係史について理解し、説明することができる。(知識・理解) ・諸宗教に関する学びを通して、異文化への関心を高め、他者への敬意を意識することができる。(態度・志向性)
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション(授業の概要、学習方法、成績評価に関する説明)</p> <p>第2回 宗教の起源(考古学的成果に見る宗教の萌芽、19世紀の宗教研究、アニミズム)</p> <p>第3回 神話(神話の源流、創世神話の類型、世界創世神話の事例、旧約聖書「創世記」、神話批判)</p> <p>第4回 儀礼(宗教儀礼と年中行事、消極的儀礼と積極的儀礼、イニシエーション)</p> <p>第5回 日本人の宗教観(宗教統計調査、宗教意識の国際比較、神道、仏教、神仏習合) 一第1回小テスト*</p> <p>第6回 近代日本の宗教政策(キリスト教の受容、国家神道、祭政一致と政教分離、神仏分離令)</p> <p>第7回 国教制度と政教分離(西洋の国教制度史、宗教改革と国教制度、近代革命と政教分離)</p> <p>第8回 宗教間関係(ユダヤ教、イスラム教、キリスト教、共通性と相違、正典の構造)</p> <p>第9回 古代におけるユダヤ教とキリスト教の関係(ディアスポラ、タキトゥス、新約聖書、古代教父)</p> <p>第10回 中世におけるユダヤ教とキリスト教の関係(エクレシアとシナゴーク、十字軍、『ヴェニス商人』)</p> <p>第11回 一第2回小テスト*</p> <p>第12回 近代におけるユダヤ教とキリスト教の関係(近代革命、啓蒙思想、ハスカラ、ユダヤ知識人) 反ユダヤ主義とショアー(ホロコースト、コルベ神父、エディット・シュタイン、『夜と霧』)</p> <p>第13回 反ユダヤ主義の思想的根拠(無神論、フォイエルバッハ、マルクス、ニーチェ)</p> <p>第14回 現代におけるユダヤ教とキリスト教(第二パチカン公会議、ヨハネ・パウロ2世、ダブル・エメト)</p> <p>第15回 宗教間対話の展開(講義の総括と展望) 一第3回小テスト*</p> <p>*試験は希望者のみ受験。</p>
授業外における学習 (準備学習の内容)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前準備学習:シラバスの各回授業のキーワードを図書やインターネットによって下調べをして、自分なりにノートにまとめる。(学習時間:2時間) ・授業後学習:授業で扱った内容をノートにまとめ、授業内で示した課題に取り組む(学習時間:2時間)
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・講義。一部の授業でグループワークを行なうことがある。 ・学期中に3回の小テストを実施する。
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した学生は、原則として不合格とする。
教科書	なし。随時プリントを配布する。
参考書	石井研士『プレステップ宗教学(プレステップシリーズ 08)』弘文堂 小原克博『一神教とは何か——キリスト教、ユダヤ教、イスラームを知るために』(平凡社新書)

社会心理学

土肥 伊都子

前期 4/14(水)～

水曜 16:30～18:00

授業のテーマ	個人、対人、集団に関する社会心理学の知見、理論を習得する。
授業の概要	社会心理学とは、個人と状況の相互作用によって人間の行動がどのように変わるのかを検討する学問である。その対象は、自分自身が日常生活を送る中で感じる身近な疑問から重大な社会問題まで、多岐に渡る。本講義では実験、調査などのアクティブ・ラーニングも交えながら、人間の心理に影響を与える要因を、個人・対人・集団(大衆)のレベルに分けて解説していく。
到達目標	社会心理学的な視点から、人の社会的行動や心の状態を把握するための適切な方法について理解できる。【知識・理解】 自らの生活の中で、社会心理学の知見を生かすことができる。【態度・志向性】
授業計画	第1回 社会心理学とは 第2回 社会心理学の方法・社会行動の原則 第3回 対人認知、 第4回 ステレオタイプと偏見 第5回 帰属 第6回 印象形成 第7回 自己 第8回 社会的比較 第9回 対人魅力 第10回 ストレス 第11回 文化 第12回 キャリア・ジェンダー 第13回 エコロジー 第14回 前期授業の補足・質疑応答・調査と実験結果のフィードバック 第15回 授業のまとめ・前期試験* *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前準備学習:各回授業で扱う教科書の該当箇所を予習すること。(学習時間:2時間) 授業後学習:授業内容に関連した新聞記事や書籍を見つけて、manaba にその記事の内容を投稿する。 (学習時間:2時間)
授業方法	講義形式 アクティブ・ラーニング 毎回の授業内容について、座席の近いペア同士が1分間ずつで説明
履修上の注意	座席指定 教科書は、毎回必携
教科書	「自ら挑戦する社会心理学」土肥伊都子(編著)保育出版社 2014
参考書	

人間関係論

土肥 伊都子

後期 9/29(水)～

水曜 16:30～18:00

授業のテーマ	人間関係に関する社会心理学の知見、理論を習得する。
授業の概要	現代社会における人間関係は、日々複雑になっている。対面でのコミュニケーションだけではなく、SNS 上での全く知らない相手との交流なども増えている。本講義では、個人と状況の相互作用によって規定される人間関係について、社会心理学の知見からアプローチする。そして、これからの社会においてどのように行動すべきかを考える。
到達目標	社会心理学的な視点から、人間関係について把握するための適切な方法について理解できる。【知識・理解】 他者に関心を持ち、その心理状態について十分な配慮をしながら、人間関係論で学んだことを生かして、深く理解することができる。【態度・志向性】
授業計画	第 1 回 人間関係論と社会心理学・コミュニケーション 第 2 回 自己開示 第 3 回 認知的斉合性 第 4 回 態度 第 5 回 説得 第 6 回 社会的影響 第 7 回 意思決定・メディアとインターネットからの影響 第 8 回 集団 第 9 回 社会的交換 第 10 回 援助行動 第 11 回 リーダーシップ 第 12 回 役割行動 第 13 回 幸福感 第 14 回 授業の補足・質疑応答・調査と実験結果のフィードバック 第 15 回 授業のまとめ・定期試験※ ※試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前準備学習: 各回授業で扱う教科書の該当箇所を予習すること。(学習時間:2 時間) 授業後学習: 授業内容に関連した新聞記事や書籍を見つけて、manaba にその記事の内容を投稿する。 (学習時間:2時間)
授業方法	講義形式 アクティブ・ラーニング 毎回の授業内容について、座席の近いペア同士が1分間ずつ説明
履修上の注意	座席指定 教科書は、毎回必携
教科書	「自ら挑戦する社会心理学」 土肥伊都子 (編著) 保育出版社 2014
参考書	

現代の教養Ⅱ

(進化から考える人間らしさ)

前期 4/12(月)～

待田 昌二

月曜 9:00～10:30

授業のテーマ	人間らしさを進化から考える
授業の概要	科学・技術が急速に発達し、社会生活も大幅に変化した現代であるからこそ、自己形成と社会的実践に通底する基盤的能力ともいえる「教養」が必要になっている。「教養」とはまた、多くの情報に溢れた現代社会において、必要な知識を選択したり、応用したり、あるときは物事に対して論理的に批判するための豊かな知識ともその見方を与えてくれる。この授業では、人間自身を対象とした科学的探求について学び考えながら、現代的教養の基礎を築くことを目的とする。
到達目標	(1) 自然にかかわる教養の一つとして人間の進化について基本的な知識を持ち、人間の身体や心の働きを進化論的視点から説明できる。【知識・理解】 (2) 社会にかかわる教養の一つとして、現代社会とそこで生きる人間の問題を進化論的視点から考えることができる。【知識・理解】 (3) 人間に対する理解を深めるを通して、他者への寛容や共生の精神を身につける。【態度・志向性】
授業計画	第 1 回 人類進化を学ぶ意味 第 2 回 人間の祖先是サルって本当？：動物の進化 第 3 回 人間の祖先是サルって本当？：ヒトとサルの共通点 第 4 回 初期人類：人類進化の始まり 第 5 回 初期ホモ属 第 6 回 現生人類：ホモ・サピエンス 第 7 回 現生人類：世界への拡がりとお見の多様性 第 8 回 人間が見る世界、聞く世界 第 9 回 道具使用と模倣：道具使用 第 10 回 道具使用と模倣：模倣 第 11 回 協力と援助：群れをつくる利点 第 12 回 協力と援助：群れの欠点と達成度確認試験※ 第 13 回 協力と援助：利他的な性質を持つ動物 第 14 回 協力と援助：サルとヒトの特徴 第 15 回 人間らしい感情の進化 期末試験※ ※試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前学習：松蔭 manaba で授業前に示す課題を行う(学習時間 1 時間) 授業後学習：松蔭 manaba で授業後に示す課題を行うとともに授業内容を試験に結実させるよう復習し、身近な問題に結び付けて考える(学習時間3時間)
授業方法	講義：授業前学修・授業後学習に松蔭 manaba を利用する。
履修上の注意	大幅な遅刻は出席と認めない。スマートフォンの電源オフなど授業マナーを守ること。
教科書	使用しない
参考書	Web上で紹介している。「神戸松蔭心理学のページ」で検索するか、松蔭 CampusLink から、「心理学のページ」→「参考図書紹介(待田)」→「人類の進化」

文化人類学

松岡 靖

後期 9/30(木)~

木曜 9:00~10:30

授業のテーマ	文化人類学を教養として学ぶことで、自分たちの文化を相対化しよう。
授業の概要	講義では、文化人類学の古典的な民族誌を紹介しながら、非西洋社会の親族構造、婚姻体系、集団形成、男女の性役割などについて学んでいく。異文化の他者について学ぶことは、異文化理解に役立つだけでなく、自文化の中で「あたりまえ」と思い込んでいる諸概念を他者の視点からとらえる客観性を養うことでもある。特に授業では、西洋中心主義的な思考に傾倒しがちな私たち自身を批判的に考察していく。これによって「西洋的思考／非西洋的思考」という単純な二項対立図式に陥ることのない思考を身につけていく。
到達目標	1.文化人類学の学説史と民族誌の初歩的知識を理解できる【知識・理解】。 2.近代的な西洋中心主義の特徴と限界を簡潔に説明できる【知識・理解】。 3.具体的な文化的差異を題材に自文化の特徴を考察できる【知識・理解】。
授業計画	第 1 回 ガイダンス:文化人類学のイメージは？ 第 2 回 バーチャルツアー:みんぱく・れきはく 第 3 回 基礎概念(1)自文化中心と文化相対 第 4 回 基礎概念(2)親族構造の変容と進化主義 第 5 回 基礎概念(3)オリエンタリズムとジェンダー 第 6 回 映像にみる民族誌(1)南アフリカのスラム 第 7 回 映像にみる民族誌(2)ネパールの結婚式 第 8 回 民族誌の古典に挑戦(1)『男性と女性』 第 9 回 民族誌の古典に挑戦(2)『タテ社会の人間関係』 第 10 回 民族誌の古典に挑戦(3)『想像の共同体』 第 11 回 映像にみる日本の多様性(1)在日コリアン 第 12 回 映像にみる日本の多様性(2)アイヌ民族 第 13 回 映像にみる日本の多様性(3)琉球・沖縄 第 14 回 人類学の実践:グループ発表と質疑応答 第 15 回 全体のまとめ:レポート返却と成績説明
授業外における学習 (準備学習の内容)	1.授業前学習:各回のキーワードの具体例を調べ授業で発表する<各 1 時間>。 2.授業後学習:学んだ概念で文化事象を解釈して次回に発表する<各 1 時間>。 3.期末レポート:文化事象に関するレポートの作成・発表・質疑<計 30 時間>。
授業方法	1.前半は教員の講義と視聴覚教材に関するディスカッションを行う。 2.中盤は教員の解説と視聴覚教材についての質疑応答を取り入れる。 3.後半はレポートの作成・発表・質疑を準備する指導を取り入れる。
履修上の注意	1.授業が理解できなければ遠慮せず積極的に質問すること。 2.私語等で他の学生に迷惑をかけるなら自ら欠席すること。 3.2/3 以上の出席に満たなければレポート提出資格を失う。
教科書	とくに指定せず必要な資料を配付する。
参考書	『男性と女性』マーガレット・ミード著、田中寿美子・加藤秀俊訳、東京創元社、ISBN9784488006631 『タテ社会の人間関係』中根千枝、講談社、ISBN9784061155053 『想像の共同体』ベネディクト・アンダーソン著 白石隆・白石さや訳、リプロポート、ISBN9784886115089

フランス語ⅡA

打田 素之

前期 4/14(水)～

水曜 9:00～10:30

授業のテーマ	フランス語文法の完成
授業の概要	1年次の文法の教科書を引き続き使用して、後半部分の前半を終える。
到達目標	【知識・理解】フランス語の関係代名詞、未来時制、過去時制が理解できる。 【汎用的技能】フランス語で書かれた文章を理解できる。 【態度・嗜好性】フランス語と日本語の文法的な違いが説明できる。
授業計画	第1回 関係代名詞 第2回 疑問代名詞 第3回 人称代名詞(直接目的) 第4回 人称代名詞(間接目的) 第5回 受動態(現在) 第6回 受動態(過去) 第7回 指示代名詞 第8回 強調構文 第9回 代名動詞(現在) 第10回 代名動詞(過去) 第11回 非人称構文 第12回 単純未来 第13回 前未来 第14回 中性代名詞 第15回 まとめとテスト* *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業範囲の教科書を読み、進出単語を調べる。(1.5時間) 授業で配布されたプリントの問題や教科書の練習問題を解き、訳文を付ける。(1.5時間)
授業方法	演習。文法事項の解説→ドリル練習→問題の解答と解説。
履修上の注意	毎回辞書を持ってくること。 1/3以上の欠席は失格とする。
教科書	斎藤昌三『ル・フランセ』、白水社。ISBN978-4-560-06052-0 C3085
参考書	

フランス語ⅡB

後期 9/29(水)～

打田 素之

水曜 9:00～10:30

授業のテーマ	フランス語文法の完成
授業の概要	1年次の文法の教科書を引き続き使用して、後半部分の後半を終える。
到達目標	【知識・理解】フランス語の条件法、接続法が理解できる 【汎用的技能】フランス語で書かれた文章を理解できる。 【態度・嗜好性】フランス語と日本語の文法的な違いが説明できる。
授業計画	第1回 前置詞を取る関係代名詞:lequel 他 第2回 前置詞を取る関係代名詞:qui, quoi 第3回 半過去(1):活用 第4回 半過去(2):用法 第5回 大過去:形と用法 第6回 条件法現在(1):活用 第7回 条件法現在(2):用法 第8回 条件法過去:形と用法 第9回 条件法と仮定法 第10回 現在分詞 第11回 ジェロンディフ 第12回 話法 第13回 接続法 第14回 〈法〉について 第15回 まとめと試験* *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業範囲の教科書を読み、進出単語を調べる。(1.5時間) 授業で配布されたプリントの問題や教科書の練習問題を解き、訳文を付ける。(1.5時間)
授業方法	演習。文法事項の解説→ドリル練習→問題の解答と解説。
履修上の注意	毎回辞書を持ってくること。 1/3以上の欠席は失格とする。
教科書	斎藤昌三『ル・フランセ』、白水社。ISBN978-4-560-06052-0 C3085
参考書	

ビジネス中国語A

前期 4/13(火)～

古川 典代

火曜 10:40～12:10

授業のテーマ	初級ビジネス中国語
授業の概要	経済面では切っても切れない関係にある隣国中国、ほとんどの業界で中国とは何らかの繋がりを持っている。そのビジネスパートナーとの通信や交流で不可欠なのが中国語。日常会話の中国語から、一歩進んだビジネスで使う中国語を理解し、活用できるように学習する。
到達目標	ビジネスで使う中国語を習得できる。【汎用的技能】 就活に役立たせることができる。【態度・志向性】
授業計画	第1回 第一課 オフィスを訪ねる 第2回 [疑問詞+ma]、動詞の重ね型 第3回 第二課 レストランに食事に行く 第4回 [形容詞+了]、選択疑問文 第5回 第三課 銀行にて 第6回 助動詞[想]の用法、結果補語[好] 第7回 第四課 商談をする 第8回 結果補語[到]、程度補語 第9回 第五課 宴会のセッティングをする 第10回 数量述語文、[把]構文 第11回 第六課 有給休暇を取る 第12回 助動詞[可以]の用法、[怪～了] 第13回 第七課 フライトを待つ 第14回 既習事項まとめ・期末試験(筆記・会話)* 第15回 総括 *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前準備学習:ピンインで書かれている中国語単語および新出単語を調べておく。付属CDでテキスト本文をを予習する。(学習時間2時間) 授業後学習:参考表現を覚える。付属CDを聞きながらシャドーイングする。(学習時2時間)
授業方法	演習:2回で1課進むペースで行う。ピンインを中国語に直して答え合わせをし、本文を朗読する。その後日本語に訳す。ペアになって会話練習をし、発表会をする。ここまでが1回目。 2回目は、文法事項を確認し、練習問題を行う。その後リスニングをして穴埋めをする。日本語訳をしながら内容を確認する。参考表現を音読し、5分間で覚える。小テストで参考表現を筆記する。このサイクルで各課の学習を繰り返していく。
履修上の注意	中国語検定4級程度の基礎力をもっていること。三分の二以上の出席が必要。
教科書	『やさしいビジネス中国語』三瀧正道・金子伸一 朝日出版社 ISBN978-4-255-45136-7
参考書	『ビジネス中国語単語ベーシック1000』古川典代監訳 三省堂 ISBN978-4-385-36547-3

ビジネス中国語B

後期 9/28(火)～

古川 典代

火曜 10:40～12:10

授業のテーマ	初級ビジネス中国語
授業の概要	経済面では切っても切れない関係にある隣国中国、ほとんどの業界で中国とは何らかの繋がりを持っている。そのビジネスパートナーとの通信や交流で不可欠なのが中国語。日常会話の中国語から、一歩進んだビジネスで使う中国語を理解し、活用できるように学習する。さらに、ビジネス中国語検定受験対策も行う。
到達目標	ビジネスで使う中国語を習得する。【汎用的技能】 就活や社会に出てからも活用したり応用できる。【態度・志向性】
授業計画	第 1 回 第八課 アフターサービス 第 2 回 ba の用法、V為～ 第 3 回 第九課 コンテナ輸送 第 4 回 [一～就…]の用法、[既～又…]の用法 第 5 回 第十課 待遇 第 6 回 [只有～才能…]の用法、[作為～]の用法 第 7 回 第十一課 病院にて 第 8 回 [先～然后…]の構文、[不是～而是…]の構文 第 9 回 第十二課 国際入札 第 10 回 「～だそうだ」の構文、「有」を伴う二音節動詞 第 11 回 第十三課 財務 第 12 回 様態補語と可能補語 第 13 回 ビジネス中国語会話「参考表現」まとめ 第 14 回 既習事項まとめ・期末試験(筆記・会話)※ 第 15 回 総括 ※試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前準備学習:ピンインで書かれている中国語単語および新出単語を調べておく。付属CDでテキスト本文をを予習する。(学習時間2時間) 授業後学習:参考表現を覚える。付属CDを聞きながらシャドーイングする。(学習時間2時間)
授業方法	演習:2 回で 1 課進むペースで行う。ピンインを中国語に直して答え合わせをし、本文を朗読する。その後日本語に訳す。ペアになって会話練習をし、発表会をする。ここまでが 1 回目。 2 回目は、文法事項を確認し、練習問題を行う。その後リスニングをして穴埋めをする。日本語訳をしながら内容を確認する。参考表現を音読し、5 分間で覚える。小テストで参考表現を筆記する。このサイクルで各課の学習を繰り返していく。
履修上の注意	中国語検定 4 級程度の基礎力をもっていること。三分の二以上の出席が必要。
教科書	『やさしいビジネス中国語』三瀧正道・金子伸一 朝日出版社 ISBN978-4-255-45136-7
参考書	『ビジネス中国語単語ベーシック 1000』古川典代監訳 三省堂 ISBN978-4-385-36547-3

韓国語ⅡC

金 智英

前期 4/12(月)～

月曜 9:00～10:30

授業のテーマ	使いこなせる韓国語
授業の概要	韓国語Ⅰで学習した基礎文法を用いて、様々な場面で実際に使える文型・表現を学習していく。特に、会話練習において、自然で正確な発音ができるように指導し、コミュニケーション能力の向上を目指す。また、写真や韓国の事情が豊富に載っているテキストを使用し、楽しく韓国文化に触れ、自由に話し合う時間を設ける。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ●韓国語を滑らかに発音できる【知識・理解】 ●生活に関連する語彙を用いて日常会話ができる【汎用的技能】 ●韓国社会や文化に興味を持ち、自主的に調べることができる【態度・指向性】
授業計画	<p>第1回 授業計画と自己紹介</p> <p>第2回 読み上げ練習と音変化の復習</p> <p>第3回 尊敬語を使って家族を紹介する</p> <p>第4回 建物や場所の位置を尋ねる/説明する</p> <p>第5回 日にち・曜日を使って提案する</p> <p>第6回 趣味について話す</p> <p>第7回 韓国の食堂で注文する</p> <p>第8回 まとめと会話練習</p> <p>第9回 過去形を使って自分の経験を話す</p> <p>第10回 場所や時間の表現を使って待ち合わせの約束をする</p> <p>第11回 ソウルの地下鉄の路線図を見て案内する</p> <p>第12回 買い物の場面で自分の希望を伝える</p> <p>第13回 電話に出る/電話をかける</p> <p>第14回 韓国の観光地を調べ、旅行計画を立てる</p> <p>第15回 まとめと期末試験*</p> <p>*試験は希望者のみ受験。</p>
授業外における学習 (準備学習の内容)	<ul style="list-style-type: none"> ●授業前準備学習<1時間30分程度> 前もって授業で扱う教科書の当該箇所のCDを聞き、単語を調べておく ●授業後学習<1時間30分程度> 学習した内容を復習し、課題を行う
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ●演習 ・授業内において、または課題として manaba を用いたドリルや小テストを行う ・毎回、学習内容に合わせてペア・グループで会話練習を行う
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・会話や単語の小テストを数回行うので日ごろから読む練習や聞き取り練習、単語暗記を自主的に行うこと ・出席が10回に満たない場合、単位取得不可となるので、要注意
教科書	『短期課程学習者のための楽しく学ぶ韓国語1』姜承恵、多楽園、ISBN:9788927730101
参考書	

韓国語ⅡD

金 智英

後期 9/27(月)～

月曜 9:00～10:30

授業のテーマ	使いこなせる韓国語
授業の概要	この授業は韓国語ⅡCを受講した人を対象とする。中級レベルの文法を導入しながら、「留学や旅行などで韓国に滞在する」といった場面設定のうえ、韓国で生活する際に必要な語彙や表現を用いて会話練習を行う。その他、多様な語尾のニュアンスを知り、使い分けることにもチャレンジする。
到達目標	●韓国語の多様な表現とそのバリエーションを理解できる【知識・理解】 ●旅行や留学などで韓国で滞在する際、日常生活に必要なコミュニケーションができる【汎用的技能】 ●韓国の社会と文化に対する理解を深め、グローバルな視点が持てる【態度・志向性】
授業計画	第1回 授業案内と前期の復習 第2回 自己紹介とともに、様々な経験について話す 第3回 カフェや食堂で注文する 第4回 留学生活に必要な情報を手に入れる 第5回 買い物後、交換や払い戻しをする 第6回 電話で食堂や旅行の予約をする 第7回 具合が悪い時、症状を説明できる 第8回 発表とまとめ 第9回 買い物で、ほしいものの条件を伝える 第10回 週末の計画を立てて、友達を誘う 第11回 タクシーに乗って、道を説明する 第12回 旅行会社に行き、情報を求める 第13回 自分の好きな観光地を友達に紹介する 第14回 空港で出入国の手続きをする 第15回 まとめと期末試験* *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	●授業前準備学習<1時間30分程度> 毎回、前もって予定されている教科書の内容を確認し、単語を調べ、当該箇所のCDを聞く ●授業後学習<1時間30分程度> 学習した内容や表現を復習し、課題を行い、各自の授業ノートを作成して試験に備える
授業方法	●講義 ・授業内において、または課題として manaba を用いたドリルや小テストを行う ・毎回、ペアやグループで会話練習を行う
履修上の注意	・会話や単語の小テストを数回行うので日ごろから読む練習や聞き取り練習、単語暗記を自主的に行うこと ・出席が10回に満たない場合、単位取得不可となるので、要注意
教科書	『楽しく学ぶ韓国語 2』姜承恵、多楽園、ISBN:9788927730118
参考書	

英語学入門A

柏本 吉章

前期 4/13(火)～

火曜 13:10～14:40

授業のテーマ	英語の特性を理解する英語学の基本的な考え方を学ぶ
授業の概要	英語という言葉の性質を理解するための英語学の基礎的概念を概観する講義である。英語教育に携わるものにとって、「英語とはどのような言語なのか」を理解し、その特性を明確に知ることは、英語の教科指導のさまざまな局面で重要な働きをする知識となる。この講義では、英語学の基本的な考え方をを使って英語の特質をわかりやすく説明できるようになることを目指すと同時に、その知識を生かして英語の学習をより効果的・効率的にする方法を探求することが目標となる。とくに国際社会の中での英語の位置づけ、英語の歴史、英語の音韻、語の形態について取り上げ、英語学の基本的な考え方への導入を図る。
到達目標	(1) 国際語としての英語の位置づけと英語の歴史の変遷を理解している。【知識・理解】 (2) 英語の基本的な音のしくみ、語のしくみを理解している。【知識・理解】 (3) 英語学の考え方をを使って英語の特性を他者に説明することができる。【知識・理解】
授業計画	第 1 回 世界のなかの英語 1 英語について考える視点 第 2 回 世界のなかの英語 2 国際語としての英語 第 3 回 世界のなかの英語 3 英語の変種、アメリカ英語とイギリス英語 第 4 回 英語の歴史 1 イギリスの歴史、英語の始まり 第 5 回 英語の歴史 2 古期英語の姿 第 6 回 英語の歴史 3 中期英語への変遷 第 7 回 英語の歴史 4 近代英語への流れ 第 8 回 音のしくみ 1 発音のしくみと音の種類 第 9 回 音のしくみ 2 音節の構造 第 10 回 音のしくみ 3 音の連続と音変化 第 11 回 音のしくみ 4 強勢とイントネーション 第 12 回 語のしくみ 1 形態論の考え方 第 13 回 語のしくみ 2 語を作る要素 第 14 回 語のしくみ 3 語形成のしくみ 第 15 回 学習内容のまとめ、総復習と期末試験* *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前学習： 各回授業で扱う教科書の当該箇所を予習し、事前に指定するキーワードについて、指定の参考書等で下調べをする<2時間> 授業後学習： 授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する。また、松蔭 manaba コースコンテンツに掲載する各回授業のキーワードの解説を確認し、理解が不十分な点についての質問事項をまとめる<2時間>
授業方法	講義： テーマの導入を図る練習問題に取り組み、その解答案についてグループまたはペアでのディスカッションを行う。グループ(ペア)ワークの報告をふまえ、テーマに沿った各種話題について講義・解説する。
履修上の注意	1. 練習問題のプリントは、各回の出席者のみに配布する(欠席の時は、翌週授業時に限り再配布する)。 2. 授業の出席回数が全体の 3 分の 2 に満たない人は、定期試験の受験資格を失うものとする。
教科書	『新 えいご・エイゴ・英語学』、稲木昭子・堀田知子・沖田知子著、松柏社 ISBN 978-4-7754-0004-3
参考書	適宜指示する

英語学入門B

柏本 吉章

後期 9/28(火)～

火曜 13:10～14:40

授業のテーマ	英語の特性を理解する英語学の基本的な考え方を学ぶ
授業の概要	英語という言語の性質を理解するための英語学の基礎的概念を概観する講義である。英語の特質を明確な形で理解し、英語の教科指導のさまざまな場面でその知識を活用することができるようになることを目的とする。この講義では、英語のいくつかの形式的・機能的側面のうち、英語の文法構造、意味のあり方、対人関係の中での表現機能、コミュニケーションのしくみ、言語と社会の関係など、現代英語を構成する実際的で重要な言語的側面を取り上げ、英語研究への更なる関心を導き出すことを目指す。
到達目標	(1) 英語の文構造のしくみ、意味表現のしくみを理解している。【知識・理解】 (2) 英語によるコミュニケーションのしくみを理解している。【知識・理解】 (3) 英語学の考え方をを使って英語の特性を他者に説明することができる。【知識・理解】
授業計画	第 1 回 英語の音のしくみ、語のしくみ、文のしくみ 第 2 回 文のしくみ1 文の分析方法 第 3 回 文のしくみ2 文の構造と意味 第 4 回 文のしくみ3 言語習得と普遍文法 第 5 回 意味のしくみ1 意味の多様性 第 6 回 意味のしくみ2 意味変化と意味関係 第 7 回 意味のしくみ3 意味の意味 第 8 回 コミュニケーションのしくみ1 発話としてのことばの意味 第 9 回 コミュニケーションのしくみ2 会話のルールとていねいさ 第 10 回 コミュニケーションのしくみ3 テキストと談話 第 11 回 英語のスタイル1 文体と使用域 第 12 回 英語のスタイル2 コミュニケーションと英語のスタイル 第 13 回 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション 第 14 回 言語と社会、言語と文化 第 15 回 学習内容のまとめ、総復習と期末試験* *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前学習： 各回授業で扱う教科書の当該箇所を予習し、事前に指定するキーワードについて、指定の参考書等で下調べをする<2時間> 授業後学習： 授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する。また、松蔭 manaba コースコンテンツに掲載する各回授業のキーワードの解説を確認し、理解が不十分な点についての質問事項をまとめる<2時間>
授業方法	講義:テーマの導入を図る練習問題に取り組み、その解答案についてグループまたはペアでのディスカッションを行う。グループ(ペア)ワークの報告をふまえ、テーマに沿った各種話題について講義・解説する。
履修上の注意	1. 練習問題のプリントは、各回の出席者のみに配布する(欠席の時は、翌週授業時に限り再配布する)。 2. 授業の出席回数が全体の3分の2に満たない人は、定期試験の受験資格を失うものとする。
教科書	『新 えいご・エイゴ・英語学』、稲木昭子・堀田知子・沖田知子著、松柏社 ISBN 978-4-7754-0004-3
参考書	適宜指示する

英語コミュニケーション概論 A

前期 4/13(火)～

川中 紀子

火曜 14:50～16:20

授業のテーマ	日本語字幕に頼らずに英語の映画を理解すること。
授業の概要	授業の前半は英語の聴解能力・読解能力を強化するための導入として、英語圏のポップソングを素材として音声変化を体系的に学ぶ。授業の後半で、映画を視聴しながら実際の会話に英語音声変化の法則がどのように反映されているかを分析する。TOEIC 形式の演習問題や受講生による発表を取り入れ、英語の 4 技能の向上を目指して、コミュニケーションのしくみや法則を学ぶ。
到達目標	・英語の音声変化の法則に習熟する。(汎用的技能) ・ディスカッション・読解などの演習を通じて総合的な英語力(CEFR B2 レベル)を養成。(知識・理解)
授業計画	第 1 回 英語の音声変化の法則・コミュニケーションのしくみ 第 2 回 映画の視聴と字幕の利用・音声変化の複合 第 3 回 TOEIC 形式の問題演習① 第 4 回 音の同化、映画の会話演習 第 5 回 音の脱落①、映画の会話演習 第 6 回 TOEIC 形式の問題演習②・アメリカ英語の特徴① nt 縮約 第 7 回 短縮形の音 (can' t, won' t) の聴き取り、映画の会話演習 第 8 回 機能語の弱形と強形、映画の会話演習 第 9 回 TOEIC 形式の問題演習③ 第 10 回 音の連結、映画の会話演習 第 11 回 ディスカッションと復習 第 12 回 TOEIC 形式の問題演習④ 第 13 回 受講生が選んだ映画の発表① 第 14 回 受講生が選んだ映画の発表② 第 15 回 まとめと復習 質疑応答・期末試験 ※ *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前準備学習: 授業で指示した課題・配布したプリントについては十分に準備してから授業に臨むこと。 (学習時間: 2 時間) 授業後学習: 授業で学習した内容・プリントをファイルし、小テスト、定期テストに万全の準備をすること。 (学習時間: 2 時間)
授業方法	講義: テーマに基づいて講義をした上で、演習を行う。理解度を確認するために、小テストを各章ごとに行う。
履修上の注意	ナチュラル・スピードの英語を教材として用いるので、英語力に自信のある学生が、望ましい。最初の小テストで 50 パーセント以下の成績だった学生は受講資格を失う。また通年で 2 冊の教科書を使用することを納得した上で受講すること。マナーを厳守できる学生のみ、受講するように心がけて欲しい。
教科書	角山照彦 Simon Capper Learn English with Titanic 成美堂、2016 年 角山照彦 Simon Capper、ポップスで学ぶ総合英語、成美堂、2011 年
参考書	随時紹介する。

英語コミュニケーション概論B

後期 9/28(火)～

川中 紀子

火曜 14:50～16:20

授業のテーマ	日本語字幕に頼らずに英語の映画を理解すること。
授業の概要	英語コミュニケーション概論 A に引き続き、授業の前半は英語の聴解能力・読解能力を強化するための手段の一つとして、英語圏のポップソングにおける各種の音声変化の例を紹介し、そのしくみを学ぶ。授業の後半で、映画に登場する会話表現に英語音声変化の法則がどのように反映されているかを分析する。TOEIC 形式の演習問題や受講生による発表を取り入れ、英語運用力の向上を目指して、コミュニケーションのしくみや法則を積極的に探る姿勢を養成する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・英語の音声変化の法則に習熟する。(汎用的技能) ・ディスカッション・読解などの演習を通じて総合的な英語力(CEFR B2 レベル)を養成。(知識・理解)
授業計画	<p>第 1 回 英語の音声変化の法則・コミュニケーションのしくみの復習</p> <p>第 2 回 映画の視聴と字幕の利用・アメリカ英語の特徴②</p> <p>第 3 回 TOEIC 形式の問題演習⑤</p> <p>第 4 回 助動詞の短縮形の音①、映画の会話演習</p> <p>第 5 回 映画の要約作成</p> <p>第 6 回 TOEIC 形式の問題演習⑥、助動詞の動詞の短縮形の音②</p> <p>第 7 回 前置詞や接続詞の弱形の発音、映画の会話演習</p> <p>第 8 回 ディスカッションと復習</p> <p>第 9 回 音の脱落②(破裂音)、映画の会話演習</p> <p>第 10 回 ing 形の発音、映画の会話演習</p> <p>第 11 回 TOEIC 形式の問題演習⑦</p> <p>第 12 回 受講生が選んだ映画の発表③</p> <p>第 13 回 受講生が選んだ映画の発表④</p> <p>第 14 回 まとめと復習</p> <p>第 15 回 質疑応答・期末試験*</p> <p>*試験は希望者のみ受験。</p>
授業外における学習 (準備学習の内容)	<p>授業前準備学習:授業で指示した課題・配布したプリントについては十分に準備してから授業に臨むこと。 (学習時間:2 時間)</p> <p>授業後学習:授業で学習した内容・プリントをファイルし、小テスト、定期テストに万全の準備をすること。 (学習時間:2 時間)</p>
授業方法	講義:テーマに基づいて講義をした上で、演習を行う。理解度を確認するために、小テストを各章ごとに行う。
履修上の注意	<p>ナチュラル・スピードの英語を教材として用いるので、英語力に自信のある学生が望ましい。最初の小テストで 50 パーセント以下の成績だった学生は受講資格を失う。</p> <p>通年で 2 冊の教科書を使用することを納得した上で受講すること。マナーを厳守できる学生のみ、受講するように心がけて欲しい。</p>
教科書	<p>角山照彦 Simon Capper Learn English with Titanic 成美堂、2016 年</p> <p>角山照彦 Simon Capper、ポップスで学ぶ総合英語、成美堂、2011 年</p>
参考書	随時紹介する。

単語と文のしくみ

前期 4/14(水)～

西垣内 泰介

水曜 10:40～12:10

授業のテーマ	動詞を中心とした単語と文のしくみ
授業の概要	<p>英語に限らず、文は「動詞」を中心として、「しくみ」を持って成り立つものです。英語の場合、動詞の後にどのような要素が現れるか、個々の動詞について知っていることは文を読解していく上でもっとも重要なことです。この授業では、いくつかの注意すべき動詞をとりあげ、それらを辞書を見ながら説明し、インターネットのコーパス(文章データベース)でそれらの動詞が実際の文章の中でどのように用いられているかを調べ、用法ごとに分類します。</p> <p>さらに、動詞と関連する派生語について調べ、単語にも「しくみ」やその法則性があることを見ます。これを理解することは、語彙力を高めるだけでなく、文を理解したり使用したりする上で大きな力となります。また、インターネットのコーパスや電子辞書の利用法を説明し、英語に関わる情報リテラシーを高めます。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・英語の文が「しくみ」を持ったものであることを理解し、それによって読解力、作文力を高める ・単語にも「しくみ」がある。これを理解することで語彙力を高めるだけでなく文の理解と使用にも役立つ。 ・インターネットのコーパス(文章データベース)を使用することで情報リテラシーを高める。
授業計画	<p>第 1 回 授業の概要説明</p> <p>第 2 回 自動詞と他動詞について break, increase</p> <p>第 3 回 「存在」を表す文</p> <p>第 4 回 「与える」give</p> <p>第 5 回 「与える」provide, supply</p> <p>第 6 回 「奪う」steal vs. rob, deprive</p> <p>第 7 回 「説得する」persuade</p> <p>第 8 回 「説得する」persuade, convince のさまざまな用法</p> <p>第 9 回 「説得する」「やめさせる」talk の用法</p> <p>第 10 回 「禁止」prohibit, forbid, etc.</p> <p>第 11 回 「せめる」blame, criticize, etc.</p> <p>第 12 回 動詞と派生名詞 depend vs. dependence</p> <p>第 13 回 接頭辞と接尾辞</p> <p>第 14 回 Out- のついた動詞</p> <p>第 15 回 授業の復習 定期試験*</p> <p>*試験は希望者のみ受験。</p>
授業外における学習 (準備学習の内容)	
授業方法	毎回の授業でレポートを提出してもらい、その評価によってこの授業の成績とします。
履修上の注意	
教科書	講義で適宜配布する。
参考書	講義で適宜配布する。

英語コンピュータ特論A

前期 4/13(火)~

西垣内 泰介

火曜 13:10~14:40

授業のテーマ	コンピュータとインターネットを使って英語を深く知ろう
授業の概要	みなさんは電子辞書やインターネット上のオンライン辞書を使っていますか。電子辞書やオンライン辞書は、紙の辞書にはない性質があるのです。たとえば、英語には strawberry, blueberry, cranberry など berry で終わる単語がたくさんあります。普通の紙の辞書では berry で終わる単語がどのぐらいあるのかを調べることはできません。しかし、電子辞書・オンライン辞書では、検索のし方を工夫することで berry で終わる単語をならべて表示することができるのです。この授業では、オンライン辞書の使い方を学び、それにもとづいて英語のさまざまな側面、特に単語のしくみについて深く知ることを目標にします。
到達目標	英語のオンライン辞書を活用することができる。 英語の単語のしくみについての基礎知識を持つことができる。 インターネットを日常の学習に活用することができる。
授業計画	第1回 授業内容の紹介 第2回 英語辞書の使い方---辞書のどこに何が書いてあるか (1) 第3回 英語辞書の使い方---辞書のどこに何が書いてあるか (2) 第4回 Oxford English Dictionary を使って見る (1) 第5回 Oxford English Dictionary を使って見る (2) 第6回 語のしくみと電子辞書・オンライン辞書 (1) 第7回 語のしくみと電子辞書・オンライン辞書 (2) 第8回 語のしくみと電子辞書・オンライン辞書 (3) 第9回 語のしくみと接頭辞・接尾辞 (1) 第10回 語のしくみと接頭辞・接尾辞 (1) 第11回 接頭辞と接尾辞の違い (1) 第12回 接頭辞と接尾辞の違い (2) 第13回 接尾辞のはたらき (1) 第14回 接尾辞のはたらき (2) 第15回 授業のまとめ
授業外における学習 (準備学習の内容)	電子辞書・オンライン辞書を日常の学習で活用する。 インターネットを日常の学習だけでなく生活の中で知的に活用する。 準備学習に要する時間については履修ガイドを参考にしてください。
授業方法	授業で学習する内容についてレクチャーし、参考となるインターネット上の英文サイトをていねいに読む。 レクチャーによる説明と参考文献にもとづいて受講者自身が辞書の検索を行う。 授業の最後にはその日の復習としてテストを行う。
履修上の注意	コンピュータを学習に役立てることに関心のある人に受講して欲しいです。
教科書	使用しない
参考書	

英語コンピュータ特論 B

後期 9/28(火)～

西垣内 泰介

火曜 13:10～14:40

授業のテーマ	コンピュータとインターネットを使って英語を深く知ろう
授業の概要	<p>前期の「英語コンピュータ特論 A」では英語の単語のしくみについてオンライン辞書を活用して深く知ることを試みました。後期のこの授業では英語の文章についてコンピュータとインターネットを使って深く知る方法を探ります。</p> <p>まず、Google Translate (Google 翻訳) について考えます。みなさんに言いたいことは、Google 翻訳は絶対に使ってはダメです。機械翻訳は、まだまだ本当の意味で実用化されるものではありません。この授業ではいくつかの日本語の文を Google 翻訳にかけてみて、その結果を検討します。これを見れば、みなさんは Google 翻訳がいかに信頼できないものであるか納得してくれると思います。</p> <p>次に「コーパス」(corpus) というものについて学習します。コーパスはいわば文章データベースで、ある単語を入力するとその単語を含む、さまざまな分野で実際に使われている文のリストが表示されるものです。辞書にも例文が表示されますが、辞書の例文は辞書制作者が作った文であることが多いのですが、コーパスは作られたものではない、実際に使われている文が示されているのです。そう言われても何に使えるのかイメージできないかも知れません。この授業ではコーパスを使うことで英語の単語や文のいろいろな側面を自分の目で検証することができる ということを学びます。</p>
到達目標	<p>英語のオンライン辞書を活用することができる。</p> <p>英語の単語のしくみについての基礎知識を持つことができる。</p> <p>インターネットを日常の学習に活用することができる。</p>
授業計画	<p>第 1 回 授業の内容紹介</p> <p>第 2 回 Google 翻訳はぜったいダメ! (1) ・Google 翻訳を実際に試してみることで、Google 翻訳がどこで間違っているかを検証していきます。</p> <p>第 3 回 Google 翻訳はぜったいダメ! (2)</p> <p>第 4 回 Google 翻訳はぜったいダメ! (3)</p> <p>第 5 回 Google 翻訳はぜったいダメ! (4)</p> <p>第 6 回 Google 翻訳はぜったいダメ! (5)</p> <p>第 7 回 コーパスの設定と基本的な使い方</p> <p>第 8 回 コーパスと「新しい英語の単語」(1)</p> <p>第 9 回 コーパスと「新しい英語の単語」(2)</p> <p>第 10 回 コーパスと品詞による検索(1)</p> <p>第 11 回 コーパスと品詞による検索(2)</p> <p>第 12 回 コーパスと collocate (1) ・コーパスの重要な機能のひとつが collocate です。ある単語がどのような単語と一緒に使われるかを調べることができます。この機能を用いることで英語の文や文法のさまざまな側面を調べることができます。</p> <p>第 13 回 コーパスと collocate (2)</p> <p>第 14 回 コーパスと collocate (3)</p> <p>第 15 回 授業のまとめ</p> <p>*試験は希望者のみ受験。</p>
授業外における学習 (準備学習の内容)	<p>電子辞書・オンライン辞書を日常の学習で活用する。</p> <p>インターネットを日常の学習だけでなく生活の中で知的に活用する。</p> <p>準備学習に要する時間については履修ガイドを参考にしてください。</p>
授業方法	授業で学習する内容についてレクチャーし、参考となるインターネット上の英文サイトをていねいに読む。

	<p>レクチャーによる説明と参考文献にもとづいて受講者自身が Google 翻訳の翻訳結果を評価したり, コーパスを用いた検索を行う。</p> <p>授業の最後にはその日の復習としてテストを行う。</p>
履修上の注意	<p>コンピュータを学習に役立てることに興味のある人に受講して欲しいです。</p>
教科書	<p>使用しない</p>
参考書	

コンピューティングA

P. Spaelti

前期 4/13(火)~

火曜 10:40~12:10

授業のテーマ	インターネットがわかる。ウェブデザインの基本。
授業の概要	この授業ではコンピュータを使ってインターネット上の情報にアクセスする方法を学びます。このために、まずコンピュータの基本的な働き、オペレーティング・システム(OS)そしてコンピュータ・ネットワークについて理解を深めることにします。それからCGなどのデジタルメディアを使ったウェブページの作成法、スタイルシートを使った情報の効果的な表示法を勉強します。さらにネット上でのあるべき倫理的問題、セキュリティとプライバシーの問題、そしてデジタルコンテンツの著作権の扱い方などにも触れます。授業では基本的概念の理解と実践の両方に重きを置く予定です。
到達目標	テキストエディタ、グラフィックス・音声・動画ファイルなどを扱うさまざまなソフトウェアに使い慣れる。データのマークアップ、HTML、CSS、そして初歩のウェブプログラミングをマスターする。【汎用的技能】
授業計画	第1回 コンピューターの基礎 第2回 ファイルエディターとファイルの種類 第3回 インターネットはなんですか？ 第4回 ブラウザーの種類 第5回 マークアップ言語:HTML 第6回 ウェブサイトの計画 第7回 スタイルシート CSS 第8回 イメージの種類 第9回 画像処理ソフトでイメージの変種 第10回 ユーザインターフェース 第11回 スクリプト 第12回 マルチメディア 第13回 プロジェクト作成・計画 第14回 プロジェクト作成・実現 第15回 プロジェクト作成・完成
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業で習った概念を実際に自分で使って慣れること。授業で始めたプロジェクトは、授業時間外に終わらせる必要があります。学習時間2時間。
授業方法	演習。コンピュータを触りながら、概念を実際に自分で試してみる。
履修上の注意	積極的な授業参加
教科書	講義で適宜配布する。
参考書	

コンピューティング B

P. Spaelti

後期 9/28(火)～

火曜 10:40～12:10

授業のテーマ	コンピュータを使ったデータ分析。
授業の概要	この授業ではコンピュータを使ってデータを収集し、組み立て、分析する方法を学びます。まずコンピュータの基本的な働き、オペレーティング・システム(OS)、ハードウェアとソフトウェアの違いなどについて理解を深めます。それからデータ入力、いろいろなフォーマットでの保存法や暗号化法、表計算ソフトやデータベースを使ったデータ分析法を勉強します。さらにネット上でのあるべき倫理的問題、セキュリティとプライバシーの問題、そしてデジタルコンテンツの著作権の扱い方などにも触れることにします。
到達目標	データ入力と分析のためにさまざまなツールをマスターすること。データベース言語(SQL)をマスターすること。【汎用的技能】
授業計画	第 1 回 データベースはなんですか？ 第 2 回 表計算ソフトを使う 第 3 回 データの種類 第 4 回 グラフを作る 第 5 回 データ分析法 第 6 回 データ構造 第 7 回 データベースソフトを使う 第 8 回 データベース言語:SQL 第 9 回 データベースの作成 第 10 回 データベースからデータを取り出す 第 11 回 セキュリティとプライバシーの問題 第 12 回 ウェブの接続 第 13 回 プロジェクト作成・計画 第 14 回 プロジェクト作成・実現 第 15 回 プロジェクト作成・完成
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業で習った概念を実際に自分で使って慣れること。授業で始めたプロジェクトは、授業時間外に終わらせる必要があります。学習時間 2 時間。
授業方法	演習。コンピューターに触りながら、概念を実際に自分で試してみる。
履修上の注意	積極的な授業参加
教科書	講義で適宜配布する。
参考書	

プレゼンテーションの技法A

前期 4/14(水)～

松田 謙次郎

水曜 10:40～12:10

授業のテーマ	時事問題とプレゼンに強くなる！
授業の概要	時事的なトピックを取り上げて、その背景を含めた詳しい内容を調べ上げてプレゼンにまとめることで、時事問題に関する知識を深めると共に、プレゼンテーションの技術も身につけてしまおうという、欲張りな授業です。トピック探し、トピックに関する資料探し、分析、パワーポイントとハンドアウト作成、プレゼンのリハーサル、そして本番の発表まで、一通りを経験することになります。グループワークとなる予定で、非常に忙しい、厳しい授業となります。
到達目標	(1) 情報を的確に判断・理解し、適切に処理する技能を身につけている【汎用的技能】
授業計画	第1回 授業紹介 第2回 グループ分け、グループ内で必要な役割分担についての説明 第3回 プレゼンテーションの方法 第4回 ハンドアウトの書き方 第5回 アイデア発表 1 第1グループから第3グループまでの発表とコメント 第6回 アイデア発表 2 第4グループから第6グループまでの発表とコメント 第7回 中間発表 1 第1グループから第2グループまでの発表とコメント 第8回 中間発表 2 第3グループから第4グループまでの発表とコメント 第9回 中間発表 3 第5グループから第6グループまでの発表とコメント 第10回 最終発表 1 第1グループの最終発表とディスカッション 第11回 最終発表 2 第2グループの最終発表とディスカッション 第12回 最終発表 3 第3グループの最終発表とディスカッション 第13回 最終発表 4 第4グループの最終発表とディスカッション 第14回 最終発表 5 第5グループの最終発表とディスカッション 第15回 最終発表 6 第6グループの最終発表とディスカッション
授業外おける学習 (準備学習の内容)	【授業前準備学習】シラバスで明示した各回の授業で扱う内容を予習し、予想される疑問点を整理しておく。発表担当の場合には、入念なリハーサルを含む発表の準備を行う(学習時間:2時間) 【授業後準備学習】授業内で説明した事柄の反芻や、他グループの発表についてハンドアウトの見返し、ディスカッションで指摘された問題点の復習などを行い、授業で扱われた内容を自分なりに整理する(学習時間:2時間)
授業方法	講義と発表 それぞれの発表について質疑応答・討議を行う。
履修上の注意	■私語厳禁。出席をしないとコメント点が取れずに、単位を落とすことになります。
教科書	
参考書	

プレゼンテーションの技法B

後期 9/29(水)～

松田 謙次郎

水曜 10:40～12:10

授業のテーマ	時事問題とプレゼンに強くなる！
授業の概要	時事的なトピックを取り上げて、その背景を含めた詳しい内容を調べ上げてプレゼンにまとめることで、時事問題に関する知識を深めると共に、プレゼンテーションの技術も身につけてしまおうという、欲張りな授業です。トピック探し、トピックに関する資料探し、分析、パワーポイントとハンドアウト作成、プレゼンのリハーサル、そして本番の発表まで、一通りを経験することになります。グループワークとなる予定で、かなり忙しく厳しい授業となります。なお、前期の「プレゼンテーションの技法A」とは異なるテーマを設定します。
到達目標	(1) 情報を的確に判断・理解し、適切に処理する技能を身につけている【汎用的技能】
授業計画	第1回 オリエンテーション、グループ分け 第2回 前期のプレゼンの反省 第3回 アイデア発表 1 第4回 アイデア発表 2 第5回 アイデア発表 3 第6回 中間発表 1 第7回 中間発表 2 第8回 中間発表 3 第9回 中間発表 4 第10回 最終発表 1 第11回 最終発表 2 第12回 最終発表 3 第13回 最終発表 4 第14回 最終発表 5 第15回 まとめと復習
授業外おける学習 (準備学習の内容)	【授業前準備学習】シラバスで明示した各回の授業で扱う内容を予習し、予想される疑問点を整理しておく。発表担当の場合には、入念なリハーサルを含む発表の準備を行う(学習時間:2時間) 【授業後準備学習】授業内で説明した事柄の反芻や、他グループの発表についてハンドアウトの見返し、ディスカッションで指摘された問題点の復習などを行い、授業で扱われた内容を自分なりに整理する(学習時間:2時間)
授業方法	講義と発表 それぞれの発表について質疑応答・討議を行う。
履修上の注意	■私語厳禁。出席をしないとコメント点が取れずに、単位を落とすこととなります。
教科書	
参考書	

アジア文化入門A

金 智英

前期 4/13(火)～

火曜 14:50～16:20

授業のテーマ	隣の国、韓国を知る
授業の概要	日本と同じ東アジア文化圏に属する国、韓国について、まず、朝鮮半島の歴史、文化、社会に関する基礎知識を学ぶ。そのうえで、現代韓国の社会と文化の変化についていくつかの項目を取り上げて学習していく。また、日韓の文化交流の歴史をたどりながら、韓流や日流の流行と現状について理解を深める。
到達目標	●韓国の歴史、文化、社会に関する基礎知識を知る【知識・理解】 ●日韓の社会や文化の共通点や相違点を理解する【知識・理解】 ●自身が属する文化と他の文化を客観的に捉えることができる【態度・指向性】
授業計画	第1回 東アジア文化圏について 第2回 朝鮮半島に存在した国々－神話紹介－ 第3回 歴史上の有名な人物とその時代背景について 第4回 韓国語の文字「ハングル」について 第5回 影響し合う日韓の言葉 第6回 現代韓国の教育事情と学生生活 第7回 食文化について－伝統から現代まで－ 第8回 日韓の宗教事情 第9回 韓国映画について 第10回 文学・芸術作品紹介 第11回 ネット社会、韓国 第12回 女性と現代韓国社会 第13回 韓国における日本文化 第14回 日本における韓国文化 第15回 授業内容のまとめ
授業外における学習 (準備学習の内容)	●授業前準備学習<2時間程度> ・日ごろからニュースなどを通して韓国に関連する情報を積極的に収集しておく ・前もって授業内容を確認し、関連する用語、事柄、記事などを調べておく ●授業後学習<2時間程度> ・授業内容を各自の授業ノートにまとめておく ・学習内容の中で興味を持った事についてさらに詳しく調べるなどして、レポートに備える
授業方法	●演習 ・各回の授業内容を説明した後、質疑応答や、意見交換を行う ・毎回、コメントシートに感想や質問を書いて提出してもらい、次の授業で補足説明を行う
履修上の注意	出席が10回に満たない場合、単位取得不可となるので、要注意。
教科書	プリント配布
参考書	館野 哲編『韓国の暮らしと文化を知るための70章』明石書店 チョ・ナムジュ『82年生まれ、キム・ジョン』筑摩書房 司馬 遼太郎『一街道をゆく2－韓のくに紀行』朝日文庫

アジア文化入門B

古川 典代

後期 9/28(火)~

火曜 14:50~16:20

授業のテーマ	隣国中国の文化を学ぶ
授業の概要	近くて遠い国、隣国中国の文化を学ぶ。 また、日本と中国を文化や習慣面から対照することにより、両者の差異と共通点について考える。 日本語の中に見られる中国語の影響や、中国語への日本語の逆輸入などを把握し、同時代の2言語を比較対照しながら日本および日本語を客観的に捉える視点を育成する。
到達目標	中国の特性を認識し、日中間の類似性と相違性を把握できる。【知識・理解】 日本と中国との異同の中から歴史的関係性に興味を持つことができる。【態度・志向性】
授業計画	第1回 中国・中国語概況 第2回 日本語にみられる中国語の影響と中国語にみられる日本語の影響 第3回 日中同形異義語 第4回 映画で見る近代中国1(唐山大地震前半) 第5回 映画で見る近代中国2(唐山大地震後半) 第6回 日中カバーソング事情 第7回 日本語と中国語の文法の違い 第8回 アルファベットや数字によるコミュニケーション 第9回 日本と中国の文化・風習の違い 第10回 中国の少数民族 第11回 中国茶の成り立ちと種類(テイスティング) 第12回 中華料理の構成と名称 第13回 日中通過儀礼の違い 第14回 日中祝祭日比較 第15回 総括
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前準備学習:日中の違いを毎回のテーマごとに対照するので、日頃から興味のアナテナを張り巡らせておく。各回のテーマをネットで調べるなど事前知識を用意しておく。(学習時間2時間) 授業後学習:授業で取り上げた内容について疑問点を自分なりに調べてみる。次週の冒頭にける解答と照らし合わせる。日頃から問題意識を持ち、情報収集する。(学習時2時間)
授業方法	演習:毎回のテーマに合わせ、可能な限り日中を対照して紹介する。その後、質疑応答を経て、理解を深める。 コメントシートに自身の考えや、気づいた点などを書き込む。コメントシートに書かれた質問は、次週の冒頭で回答する。最後にこの授業で習得したことを中心に、興味を持ったテーマでレポートを作成して提出する。
履修上の注意	中国語の学習経験があるほうが望ましい。三分の二以上の出席が必要。
教科書	指定教科書は無し。必要に応じてプリントを配布する。
参考書	授業中に紹介する

音韻・表記の基礎知識

前期 4/14(水)～

黒木 邦彦

水曜 13:10～14:40

授業のテーマ	日本語を主対象とする音声学・音韻論
授業の概要	音声、音素、文字の関係を理解したのち、音声に象徴性が備わっていることを学ぶ。
到達目標	(1) 知識・理解: a. 音声、音素、文字の関係を掴む。 b. 音声に象徴性が備わっていることを掴む。 (2) 汎用的技能: a. 学説が必ずしも定まっていなことに意識的である。 b. 構造的単位とその構成要素とに意識的である。 c. 科学的分析の基礎が実践できる。 (3) 態度・志向性: 授業を通じて、卒業研究の種を掴む。
授業計画	第 1 回 授業概要、授業計画、到達目標の説明 第 2 回 音声と文字との関係 第 3 回 音声とその象徴性 第 4 回 第 2 章の講読 第 5 回 国際音声字母 (The International Phonetic Alphabet = IPA) の理解 第 6 回 第 3 章の講読 第 7 回 第 4 章の講読 第 8 回 調音音声学と音響音声学 第 9 回 音響分析実践 第 10 回 第 5 章の講読 第 11 回 第 6 章の講読 第 12 回 知覚音声学 第 13 回 第 7 章の講読 第 14 回 全体のまとめと期末課題指導 第 15 回 期末課題添削
授業外における学習 (準備学習の内容)	(1) 授業前学習 (毎週 2 時間): 教員が指示した重要語句や参考文献の予習。 (2) 授業後学習 (毎週 2 時間): 授業内容の復習と期末課題の準備。
授業方法	(1) 板書やスクリーンを活用しながら講義を行なったのち、授業内で完結する課題を与える。学生から得た正答や名案は受講者全員で共有する。 (2) 練習問題や課題を複数人で行なう機会が有る。
履修上の注意	特段の理由無く欠席した者に対する学習補助は一切行なわない。
教科書	川原 繁人 (2017)『「あ」は「い」より大きい!?』ひつじ書房
参考書	服部 四郎 (1951)『音声学』(岩波全書 131) 岩波書店 服部 四郎 [1951] (1979)『新版 音韻論と正書法』大修館書店 斎藤 純男 (2006)『改訂版 日本語音声学入門』三省堂 川原 繁人 (2015)『音とことばのふしぎな世界』岩波書店

文法の基礎知識

後期 9/29(水)～

黒木 邦彦

水曜 13:10～14:40

授業のテーマ	日本語を主対象とする文法論
授業の概要	音声、音素、文字の関係を理解したのち、言語の構造・単位と曖昧性・多義性とを学ぶ。
到達目標	(1) 知識・理解: a. 音声、音素、文字の関係を掴む。 b. 言語の曖昧性・多義性を掴む。 (2) 汎用的技能: a. 学説が必ずしも定まっていなかったことに意識的である。 b. 構造的単位とその構成要素とに意識的である。 c. 科学的分析の基礎が実践できる。 (3) 態度・志向性: 授業を通じて、卒業研究の種を掴む。
授業計画	第 1 回 授業概要の説明 第 2 回 音声、音素、文字の関係 第 3 回 第 1 章の講読 第 4 回 第 2 章の講読 第 5 回 語の構造 第 6 回 語、句、節の階層構造 第 7 回 第 3 章の講読 第 8 回 意味論 第 9 回 第 4 章の講読 第 10 回 第 5 章の講読 第 11 回 語用論 第 12 回 第 6 章の講読 第 13 回 第 7 章の講読 第 14 回 全体のまとめと期末課題指導 第 15 回 期末課題添削
授業外における学習 (準備学習の内容)	(1) 授業前学習 (毎週 2 時間): 教員が指示した重要語句や参考文献の予習。 (2) 授業後学習 (毎週 2 時間): 授業内容の復習と期末課題の準備。
授業方法	(1) 板書やスクリーンを活用しながら講義を行なったのち、授業内で完結する課題を与える。学生から得た正答や名案は受講者全員で共有する。 (2) 練習問題や課題を複数人で行なう機会が有る。
履修上の注意	特段の理由無く欠席した者に対する学習補助は一切行なわない。
教科書	広瀬 友紀 (2017)『ちいさい言語学者の冒険』岩波書店
参考書	上山 あゆみ (1991)『はじめての人の言語学—ことばの世界へ』くろしお出版 小泉 保 (1993)『日本語教師のための言語学入門』大修館書店 川添 愛 (2017)『働きたくないイタチと言葉がわかるロボット』朝日出版社

社会言語学の基礎

後期 10/1(金)～

田附 敏尚

金曜 10:40～12:10

授業のテーマ	日本語の位相差を知る
授業の概要	たとえば同じ内容のことを表現する場合でも、それを使う人の出身地や住む場所、年齢、社会階層、言語意識等の違いによって言語にはさまざまな変種があり得る。この講義では、そのようなことばのバリエーションに注目し、その理解を深めることを目指す。主に前半では地域差に注目し、後半はその他の位相差を取り扱う。
到達目標	(1)日本語の位相差に関する基礎的知識を身につけ、それを説明できる(知識・理解(1)) (2)日本語の位相差に関するデータを観察することで、正しい分析結果を導き出すことができる(汎用的技能(2))
授業計画	第 1 回 社会言語学の研究領域 第 2 回 方言のさまざまな分布と解釈 第 3 回 発音の地域差 第 4 回 アクセントの地域差 第 5 回 文法の地域差(1)―活用の地域差など― 第 6 回 文法の地域差(2)―条件表現の地域差など― 第 7 回 待遇表現・その他の地域差 第 8 回 ここまでのまとめ 第 9 回 言語と属性(1)―性― 第 10 回 言語と属性(2)―社会階層― 第 11 回 言語と属性(3)―年齢差― 第 12 回 言語と属性(4)―年齢・世代による変化― 第 13 回 言語景観 第 14 回 言語と文化 第 15 回 総括
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前:授業計画に従って、次回授業であることを調べておく。(学習時間:2時間) 授業後:授業内で前回の講義内容に関する小テストを毎回行うので、授業で学んだことをふまえて整理する。(学習時間:2時間)
授業方法	講義:基本的には講義形式だが、受講者に google フォームを用いてその場でアンケートを取るなど双方向型の授業も行う。また、毎回松蔭 manaba を使って小テストを行い、授業内容に関するコメントを求める。
履修上の注意	・こちらが書き出したこと以外でも、自分で積極的にメモを取りノート作りをすることを心掛けてほしい(大学の学びの基本)。 ・私語を慎み、居眠りなども極力しないようにすること。注意しても直らない場合は退席を命じることがある(退席者は当該の回は欠席と見做す)。 ・受講者は、スマートフォンを持っているのであれば授業時にアンケートや小テスト等で使うので、用意しておいてほしい(もちろんなくても構わない)。
教科書	プリントを配布する。
参考書	木部暢子・竹田晃子・田中ゆかり・日高水穂・三井はるみ 編著『方言学入門』(2013年、三省堂) 小林隆・篠崎晃一編『方言の発見―知られざる地域差を知る』(2010年、ひつじ書房)

日本語音韻史

前期 4/9(金)～

黒木 邦彦

金曜 13:10～14:40

授業のテーマ	古代日本語の音韻および表記の変遷
授業の概要	音声と文字との関係を理解したのち、日本語における音韻・表記の歴史を学ぶ。
到達目標	(1) 知識・理解: a. 音と文字との関係を掴む。 b. 音声と音韻との差異を掴む。 c. 日本語の文字・表記の歴史に関する知識を得る。 (2) 汎用的技能: a. 学説が必ずしも定まっていなことに意識的である。 b. 構造的単位とその構成要素とに意識的である。 (3) 態度・志向性: 授業を通じて、卒業研究の種を掴む。
授業計画	第 1 回 授業概要の説明 第 2 回 『万葉集』の表記法 第 3 回 音読みと訓読みとの違い 第 4 回 音声から文字への転写 第 5 回 文字から音声への推定 第 6 回 日本への漢字伝来 第 7 回 音仮名による音節表記 第 8 回 訓仮名による音節表記 第 9 回 音訓の交用 第 10 回 漢文と和文との違い 第 11 回 和文の成立 第 12 回 歌の文字化 第 13 回 万葉仮名文から仮名文へ 第 14 回 全体のまとめと期末課題指導 第 15 回 期末課題添削
授業外における学習 (準備学習の内容)	(1) 授業前学習 (毎週 2 時間): 教員が指示した重要語句や参考文献の予習。 (2) 授業後学習 (毎週 2 時間): 授業内容の復習と期末課題の準備。
授業方法	・遠隔授業 (1) 板書やスクリーンを活用しながら講義を行なったのち、授業内で完結する課題を与える。学生から得た正答や名案は受講者全員で共有する。 (2) 練習問題や課題を複数人で行なう機会が有る。
履修上の注意	特段の理由無く欠席した者に対する学習補助は一切行なわない。
教科書	沖森 卓也 (2003)『日本語の誕生: 古代の文学と表記』吉川弘文館
参考書	樺島 忠夫 (1979)『日本の文字: 表記体系を考える』(岩波新書・黄版 75) 岩波書店 小松 茂美 (1968)『かな: その成立と変遷』(岩波新書・青版 679) 岩波書店 服部 四郎 [1951] (1979)『新版 音韻論と正書法』大修館書店 佐竹 昭廣・木下 正俊・小島 憲之 (校訂) (1998)『補訂版 万葉集 本文篇』塙書房

日本語文法史

黒木 邦彦

後期 10/1(金)～

金曜 13:10～14:40

授業のテーマ	古典日本語力の強化
授業の概要	古典日本語文法の基礎を習得したのち、作歌・作文を通して、古典日本語の素養を身に付ける。
到達目標	(1) 知識・理解: 古典日本語文法の基礎を習得し、古典に対する苦手意識を解消する。 (2) 汎用的技能: a. 構造的単位とその構成要素とに意識的である。 b. 外界を正確に言語化できる。 (3) 態度・志向性: 授業を通じて、卒業研究の種を掴む。
授業計画	第 1 回 授業概要の説明 第 2 回 古典日本語と現代日本語との関係 第 3 回 体言に見る国文法の欠陥 第 4 回 用言に見る国文法の欠陥 第 5 回 付属語に見る国文法の欠陥 第 6 回 受身・自発・可能および使役の表現 第 7 回 受身・自発・可能および使役の表現を使った作歌・作文 第 8 回 否定の表現 第 9 回 否定の表現を使った作歌・作文 第 10 回 時間の表現 第 11 回 時間の表現を使った作歌・作文 第 12 回 妥当性・可能性の表現 第 13 回 妥当性・可能性の表現を使った作歌・作文 第 14 回 意志・勧誘・願望の表現 第 15 回 意志・勧誘・願望の表現を使った作歌・作文
授業外における学習 (準備学習の内容)	(1) 授業前学習 (毎週 2 時間): 教員が指示した重要語句や参考文献の予習。 (2) 授業後学習 (毎週 2 時間): 授業内容の復習と期末課題の準備。
授業方法	・遠隔授業 (1) 板書やスクリーンを活用しながら講義を行なったのち、授業内で完結する課題を与える。学生から得た正答や名案は受講者全員で共有する。 (2) 練習問題や課題を複数人で行なう機会が有る。
履修上の注意	特段の理由無く欠席した者に対する学習補助は一切行なわない。
教科書	無し。
参考書	清瀬 義三郎 則府 (1971)「連結子音と連結母音と: 日本語動詞無活用論」『國語學』86、pp. 42-56、國語學會 小田 勝 (2015)『実例詳解 古典文法総覧』和泉書院

日本語教授法応用 A

前期 4/12(月)～

池谷 知子

月曜 13:10～14:40

授業のテーマ	この授業は日本語教員養成課程の必修科目の1つである。 外国語の視点から日本語を見る経験は、日本語教育だけでなく、異文化間コミュニケーションの場でも活かせるものである。自分自身の言語や文化への知識を増やししながら、日本語教育に必要な知識を深めることをテーマとする。
授業の概要	日本語教育に必要な実践的知識と技能を学ぶ。日本語の文法・表記・音声などの基礎知識を踏まえて、それを外国語として教授する方法を具体的・実践的に学ぶ。初級の文型教育の特徴など教材研究をしながら、「外国語としての日本語」を非母語話者にどのように教授するのか、外国語教育とは何か違うのかという視点を獲得していく。この授業では特に「日本語の文法」の側面に注目し、それを外国語としてとらえた時どのような特徴があるのか、学習者には何が問題なのかを考えていく。また、このクラスでは留学生との交流授業も予定しているので積極的な参加を望む。 シラバスに示したペースはあくまで目安であり、興味や理解度に応じて変わることがある。
到達目標	① 日本語の文法の仕組みやルールに対する知識を学ぶことができる。【知識・理解】 ② よく似た文法の違いを日本語を母語としない人に説明することができる。【汎用的技能】 ③ 日本語学習者と交流し、世界から見た日本を知ることができる。【汎用的技能】
授業計画	第 1 回 はじめに 第 2 回 名詞文・名詞文 第 3 回 名詞文・名詞文2 第 4 回 形容詞・形容詞文1 第 5 回 形容詞・形容詞文2 第 6 回 形容詞・形容詞文3 第 7 回 動詞の分類1 第 8 回 動詞の分類2 第 9 回 動詞の分類3 第 10 回 辞書形 第 11 回 ます形 第 12 回 て形 第 13 回 た形 第 14 回 留学生との交流授業(日程が変わることもある) 第 15 回 まとめ及び到達度確認テスト* *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	事前学習:業前準備学習:各回授業で扱う教科書の当該箇所の予習 <学習時間 2 時間> 授業後学習:授業で学んだことのとまとめと授業で取り上げた内容に関する課題や問題をやってくること。 <学習時間2時間>
授業方法	基本的には講義形式だが、課題をグループワークやペアワークで解いたり、ディスカッションを行う。 授業後に事後学習として manaba で授業の内容を確認する小テストを行う。
履修上の注意	自分自身の外国語学習や外国人とのコミュニケーションの経験を参考に積極的に意見を出して欲しい。 なお、授業の一環として留学生との交流や、学外見学・研修の可能性がある。 4/5 以上出席がないと試験がうけられない可能性がある。
教科書	『書き込み式でよくわかる 日本語教育文法講義ノート』アルク ISBN978-4757433922
参考書	授業の中で紹介する。

日本語教授法応用B

後期 9/27(月)～

池谷 知子

月曜 13:10～14:40

授業のテーマ	この授業は日本語教員養成課程の必修授業の1つである。 外国語の視点から日本語を見る経験は、日本語教育だけでなく、異文化間コミュニケーションの場でも活かせるものである。自分自身の言語や文化への知識を増やししながら、日本語教育に必要な知識を深めることをテーマとする。
授業の概要	多様化する学習者に対応できる実践的な知識と技能を学ぶ。日本語文法を分析することから、よく似た文法の使い分けや、学習者に教授するときの注意点などを考える。「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能の指導方法、誤用分析などを通して、中間言語研究への入門も行う。また、学習者の母語別の問題点の指導法などもとりあげる。年少者への日本語教育、国語教育、母語習得、継承言語など日本語教育をとりまく様々な問題点にもふれる。授業の中で留学生との合同授業を行うこともある。 シラバスに示したペースはあくまで目安であり、興味や理解度に応じて変わることがある。
到達目標	① 日本語の文法の仕組みやルールに対する知識を学ぶことができる。【知識・理解】 ② よく似た文法の違いを日本語を母語としない人に説明することができる。【汎用的技能】
授業計画	第1回 はじめに、前期の復習(名詞・形容詞・動詞) 第2回 動詞の活用「ない形」 第3回 自動詞・他動詞1(自動詞) 第4回 自動詞・他動詞2(他動詞) 第5回 自動詞・他動詞3(対になる自他と代用形) 第6回 テンス 第7回 アスペクト 第8回 モダリティ 第9回 ヴォイス1(受身) 第10回 ヴォイス2(使役) 第11回 ヴォイス3(可能) 第12回 授受表現1(あげる、もらう、くれる) 第13回 授受表現2(～てあげる、～てもらう、～てくれる) 第14回 助詞 第15回 まとめと到達度確認テスト* *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	事前学習:業前準備学習:各回授業で扱う教科書の当該箇所の予習<学習時間2時間> 授業後学習:授業で学んだことのとまとめと授業で取り上げた内容に関する課題や問題をやってくること。 <学習時間2時間>
授業方法	基本的には講義形式だが、課題をグループワークやペアワークで解いたり、ディスカッションを行う。 授業後に事後学習として manaba で授業の内容を確認する小テストを行う。
履修上の注意	自分自身の外国語学習や外国人とのコミュニケーションの経験を参考に積極的に意見を出して欲しい。 なお、授業の一環として留学生との交流や、学外見学・研修の可能性もある。 4/5以上出席がないと試験がうけられない可能性がある。
教科書	『書き込み式でよくわかる 日本語教育文法講義ノート』アルク ISBN978-4757433922
参考書	授業の中で紹介する。

日本文化を学ぶ

後期 9/27(月)～

田中 まき

月曜 10:40～12:10

授業のテーマ	王朝びとの生活と文化
授業の概要	平安時代の貴族たちがどのような邸に住み、どのような装束を身にまとい、どのような生活を送っていたのかを考察し、さらに、そこに形成されていった華やかで雅(みやび)な平安時代の文化について明らかにしたい。 本授業では、『源氏物語』や『枕草子』、また『紫式部日記』などの王朝日記に現れている王朝人の暮らしや文化について講義する。当時の貴族生活や儀礼・行事について理解しやすいよう、画像を提示しながら解説する。
到達目標	(1) 平安貴族の暮らしと文化について理解し、説明できる。【知識・理解】 (2) 日本文化における平安時代の文化の特徴を説明することができる。【汎用的技能】
授業計画	第 1 回 王朝人の住まい 第 2 回 男性の装束 第 3 回 女性の装束 第 4 回 装い(化粧・整髪など) 第 5 回 貴族の食事 第 6 回 信仰と生活習慣(物忌み、方違え) 第 7 回 貴族の宮仕え(官位官職) 第 8 回 通過儀礼(袴着・元服・裳着など) 第 9 回 恋愛と結婚 第 10 回 算賀・葬送 第 11 回 年中行事と節会(七夕・相撲節会など) 第 12 回 祭礼(賀茂の祭など) 第 13 回 貴族の教養 第 14 回 貴族の遊び(音楽・蹴鞠など) 第 15 回 まとめと試験* *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前準備学習: 平安時代の文化について興味を持ち、それらが扱われた資料や書籍を読む。(2時間) 授業後学習: 授業で学んだ平安時代の文化や関連する事項について要点を確認、整理する。(2時間)
授業方法	遠隔授業: Zoom での講義 毎回、プリント(資料)を manaba に添付し、それに沿って、Zoom で講義する。 授業の最後に課す課題や問題に答えて、manaba に提出する。 (平安時代の文化について考察したことについてプレゼンテーションにも取り組む。)
履修上の注意	毎回、課題や問題に答えて manaba に提出する。 manaba 上で、期末試験と小テストも実施する。 3分の2以上の出席に満たない者は試験を受ける資格がないものとする。
教科書	プリントを使用する。
参考書	授業中に提示する。

古典文学の研究

田中 まき

前期 4/8(木)～

木曜 13:10～14:40

授業のテーマ	『伊勢物語』の生成と享受
授業の概要	『伊勢物語』は、在原業平とおぼしき「男」を主人公とする歌物語である。 本講義では、『伊勢物語』の本文を読み味わいながら、 この物語がどのように生成されていったか、 また、『伊勢物語』が後世の文学や美術工芸に与えた影響について探究する。
到達目標	(1)『伊勢物語』がどのように生成、増補された物語か、理解し説明できる。(知識・理解) (2)『伊勢物語』がどのように後世に享受されたか、その様相を理解し説明できる。(知識・理解)
授業計画	第1回 『伊勢物語』の構成と書名の由来 第2回 在原業平と『業平集』 第3回 『伊勢物語』の生成の過程 第4回 『伊勢物語』の増補 第5回 在原業平と『伊勢物語』の主人公 第6回 『伊勢物語』の伝本 第7回 『伊勢物語』の注釈 第8回 和歌における『伊勢物語』の享受 第9回 能における『伊勢物語』の享受 第10回 美術工芸における『伊勢物語』の享受 第11回 『伊勢物語』の絵巻・絵本(鎌倉時代) 第12回 『伊勢物語』の絵巻・絵本(室町時代) 第13回 『伊勢物語』の絵巻・絵本(江戸時代) 第14回 『伊勢物語』の古活字本と版本 第15回 『伊勢物語』の生成と享受についてのまとめと試験※ *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前準備学習: 次回テーマについて指示した内容を予習する。(学習時間: 2時間) 授業後学習: 授業で学んだ『伊勢物語』の生成について復習する。 授業で提示した『伊勢物語』の享受について復習する(学習時間: 2時間)
授業方法	『伊勢物語』の生成と享受について講義する。 『伊勢物語』の読解についてはディスカッションも取り入れて演習する。
履修上の注意	遅刻、欠席を厳に慎むこと。 3分の2以上の出席に満たない場合は、単位認定できない。
教科書	『新校注 伊勢物語』片桐洋一・田中まき校注(和泉書院) ISBN978-4-7576-0795-8C3095 なお、この教科書は、「日本文化を学ぶ」(伊勢物語の美術)で使用した教科書と同じものなので、購入済の場合、申し込みは不要。
参考書	『伊勢物語全読解』片桐洋一(和泉書院) 新編日本古典文学全集『伊勢物語』福井貞助(小学館) 新日本古典文学大系『伊勢物語』秋山 虔(岩波書店) 『伊勢物語全評釈』竹岡正夫(右文書院) 『伊勢物語絵巻絵本大成』(角川学芸出版)

日本書道史

丸山 果織

後期 9/27(月)～

月曜 14:50～16:20

授業のテーマ	日本の書は、中国から漢字を受容することから始まり、日本独自の美意識のもと、展開されてきた。その中で、各時代の社会的背景も大きく関わる。今日に至るまでの日本の書の変遷を理解することで、日本文化について考えていく。
授業の概要	日本書道史を時代区分し、各時代の社会的、文化的背景をふまえ当時の書の特徴を理解する。文字を受容してから戦後現代に至るまでの日本の書について考察する。その際、具体的な作品を取り上げ、鑑賞しながら進める。
到達目標	①日本の書の展開、各時代の書の特徴について理解することができる。【知識・理解】 ②日本の書について、各時代の社会的、文化的背景について理解したうえで、自分の言葉で論じることができる。【汎用的技能】
授業計画	第1回 ガイダンス、日本書道史について 第2回 漢字の伝来以前と漢字の受容 第3回 奈良時代①(中国の書) 第4回 奈良時代②(天平文化・万葉仮名) 第5回 平安時代前期(唐様・三筆とその周辺) 第6回 平安時代中期～後期①(和様・三蹟とその周辺) 第7回 平安時代中期～後期②(仮名の誕生から完成) 第8回 平安時代中期～後期③(仮名と古今和歌集、料紙) 第9回 平安時代末期～鎌倉時代(俊成・定家、平家納経) 第10回 室町時代(墨跡) 第11回 安土桃山～江戸初期(寛永の三筆とその周辺) 第12回 江戸時代～明治初期(御家流、文人の書) 第13回 明治・大正時代(楊守敬の来日、古筆復興、毛筆廃止論) 第14回 昭和初期・戦後現代 第15回 今日の書の展望(ゲストスピーカーによる講義)
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前学習:次時の内容について教科書を読んで予習すること。(学習時間:2時間) 授業後学習:扱った内容を復習すること。また、授業中に紹介した資料は必ず読み、各自の関心事項に関する資料調査を行うこと。(学習時間:2時間) 紹介した展覧会で鑑賞すること。
授業方法	・遠隔授業 講義、グループワーク、ディスカッション
履修上の注意	随時小テストを行う。事前予告は授業中に行う。 関連する展覧会があれば美術館で鑑賞会を行うことがある。
教科書	『決定版 日本書道史』名見耶明監修、芸術新聞社、ISBN978-4-87586-166-9 2800円+税金 適宜プリントを配布する。
参考書	『書学挙要－書の歴史と文化－』魚住和晃・萩信雄編、藝文書院、ISBN4-907823-03-7

臨床心理学概論 A

前期 4/9(金)～

榊原 久直

金曜 9:00～10:30

授業のテーマ	臨床心理学とは何かについて、代表的な理論を学ぶことを通して、その歴史的や特徴について考える。
授業の概要	様々な臨床心理学の代表的な理論を学ぶとともに、臨床心理学の成り立ちについて理解する。そして具体的な心理学的問題をどのように理解し、その改善にどのように働きかけていくかについて学習する。また、臨床心理行為を行うために必要な教育・訓練、および倫理的問題についても学習する。
到達目標	1. 臨床心理学という学問の成り立ちや、特徴、基本的な概念について説明できる。【知識・理解】 2. 代表的な臨床心理学の基礎理論を挙げ、それらについて説明できる。【知識・理解】 3. 臨床心理学と自らの生活との関連を見出し、その関連について論述できる。【態度・志向性】【汎用的技能】
授業計画	第 1 回 オリエンテーション - 臨床心理学とは何か 第 2 回 臨床心理学の基礎理論①:精神分析 第 3 回 臨床心理学の基礎理論②:行動療法 第 4 回 臨床心理学の基礎理論③:認知(行動)療法 第 5 回 臨床心理学の基礎理論④:人間性心理学 第 6 回 臨床心理学の対象①:神経症・精神病 第 7 回 臨床心理学の対象②:人格障害 第 8 回 臨床心理学の対象③:発達障害 第 9 回 ライフサイクルと臨床心理学①:乳幼児期・児童期 第 10 回 ライフサイクルと臨床心理学②:思春期・青年期 第 11 回 ライフサイクルと臨床心理学③:成人期・老年期 第 12 回 臨床心理学的アセスメント 第 13 回 臨床心理行為と倫理 第 14 回 まとめと試験* 第 15 回 試験解題 *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前準備学習:シラバスの授業計画にある用語について、書籍やインターネットを使って事前に調べておくこと(例:第 1 回は「臨床心理学」、第 2 回は「精神分析」、など)(学習時間:2 時間)。 授業後学習:授業で取り上げた内容について、確認整理しておくこと。また、授業で紹介した参考文献を読んで、授業の内容についての理解を深めること。(学習時間 2 時間)
授業方法	基本的には講義形式を用いる。必要に応じて映像資料や絵本や写真など視聴覚的な資料を用いることや、ロールプレイなどの体験学習を用いる。
履修上の注意	欠席が 5 回を超える場合には単位を認定しない。また遅刻は 2 分の 1 欠席として計算する。 15 分以上の遅刻は欠席として扱うものとする。
教科書	特に指定せず、授業内にて資料を配布する
参考書	下山晴彦(編)(2009)『よくわかる臨床心理学 改訂新版』ミネルヴァ書房。 ISBN:978-4623054350

心理療法A

中村 博文

前期 4/14(水)～

水曜 14:50～16:20

授業のテーマ	さまざまな心理療法について学ぶーA. 精神分析と精神分析的な心理療法
授業の概要	心理療法には、さまざまな学派(考え方)、またさまざまな対象がある。心理学科専門教育科目「心理療法」では、講師の専門性に応じたさまざまな心理療法について学ぶ。「心理療法 A」では、精神分析と精神分析的な心理療法を学ぶ。精神分析とは、Freud, S.により創始された心理学理論、かつその理論に基づく心理学的援助技法の体系である。また、精神分析の考え方や技法を基盤として行われる心理療法を、精神分析的な心理療法という。 この授業では、精神分析の基本的な考え方を学ぶとともに、精神分析的な心理療法の実際について学習する。
到達目標	(1)Freud の精神分析の考え方や概念について、4つの基本的な観点から説明することができる。【知識・理解】 (2)Freud 以降の精神分析の発展について、主な学派とそれらの特徴を解説することができる。【知識・理解】 (3)精神分析、精神分析的な心理療法の技法について、専門用語を用いて説明することができる。【知識・理解】 (4)心に関する現象を、精神分析的な視点から説明できる。【態度・志向性】
授業計画	第 1 回 オリエンテーションー精神分析・精神分析的な心理療法とは？ 第 2 回 精神分析の基本的観点①:局所論／構造論 第 3 回 精神分析の基本的観点②:力動論 第 4 回 精神分析の基本的観点③:経済論 第 5 回 精神分析の基本的観点④:発達論 第 6 回 精神分析の技法①:催眠から自由連想へ 第 7 回 精神分析の技法②:転移、逆転移、中立性 第 8 回 精神分析の発展①:アドラーとユング 第 9 回 精神分析の発展②:精神分析の学派(1)ー自我心理学・対象関係論 第 10 回 精神分析の発展③:精神分析の学派(2)ー自己心理学・対人関係論 第 11 回 精神分析の発展④:対象の拡大 第 12 回 精神分析と精神分析的な心理療法①:精神分析の基礎にあるもの 第 13 回 精神分析と精神分析的な心理療法②:精神分析の新しい流れ 第 14 回 まとめ、試験* 第 15 回 試験解題 *試験の受験は不要。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前準備学習(90分以上):シラバスの授業計画にある用語について、書籍やインターネットを使って事前に調べておく(例:#01は「精神分析」「精神分析的な心理療法」、#02は「局所論」「構造論」、など)。 授業後学習(90分以上):授業で取り上げた内容について、確認整理をしておく。また、授業で紹介した参考文献を読んで、授業の内容についての理解を深める。
授業方法	・遠隔授業 講義形式。 毎回の授業において、小レポート(その回の授業で学んだ内容に関する問いについて考えた回答、および質問、感想)を提出することを求める。 なお、提出された小レポートに対しては、次回の授業の冒頭で担当者がコメントを行う。
履修上の注意	毎回の授業で、プリントを配布する。欠席時のプリントについては、次回の授業時に限って再配布する。 私語など、他の受講生の迷惑となる行為については、厳しく注意する。態度が改まらない場合には退席を求めたり、以降の受講を不可とする場合もある。
教科書	なし。

参考書	マイケル・カーン 2017 ベイシック・フロイトー21世紀に活かす精神分析の思考 岩崎学術出版社 ISBN: 978-4753311262 土居健郎 1988 精神分析 講談社学術文庫 ISBN:978-4061588516 小松貴弘・渡辺亘・中村博文 2019 時間のかかる営みを、時間をかけて学ぶための心理療法入門 創元社 ISBN:978-4422117218 その他、授業内で適時紹介する。
------------	---

心理療法B

榎原 久直

後期 9/29(水)～

水曜 14:50～16:20

授業のテーマ	さまざまな心理療法について学ぶ。 －B／Ⅱ. 子どもの心理療法
授業の概要	心理療法には、さまざまな学派(考え方)、またさまざまな対象がある。心理学科専門教育科目「心理療法」では、講師の専門性に応じた様々な心理療法について学ぶ。 「心理療法 B／Ⅱ」では乳幼児期から児童期までの間に子どもが呈する様々な心理症状についての知識を得る。 そして子どもにとって身近な他者である家族の心理について同時に考えることで、子どもの援助を多面的な視点から学ぶ。
到達目標	1.乳幼児期から児童期に至る子どもの呈する心理症状や障害(がい)についての基礎的な知識を得て、人に説明ができる。【知識・理解】【汎用的技能】 2.子どもやその家族の心的援助について様々な立場からできることを考える視点を持つことができる。【態度・志向性】【汎用的技能】
授業計画	第 1 回 オリエンテーション ～子どもの臨床とは～ 第 2 回 子どもの心や症状について考えるための基本的な理解 第 3 回 プレイセラピーとは 第 4 回 ケースから学ぶ～実際の子どものセラピーの様子について文献記録を読み解く～ 第 5 回 乳児期に見られる症状とその援助①反応の弱い子, 過敏な子, 育てやすい子 第 6 回 乳児期に見られる症状とその援助②発達の早い子, ゆっくりな子 第 7 回 幼児期に見られる症状とその援助①夜驚症, チック障害 第 8 回 幼児期に見られる症状とその援助②緘黙症, 強迫性障害 第 9 回 体験から学ぶ～①乳幼児期のセラピーの技法を体験してみよう～ 第 10 回 アタッチメント理論を基にした子どもの理解と親への援助 第 11 回 親子の関係性そのものの理解と援助の技法を学ぶ～セラプレイとは～ 第 12 回 体験から学ぶ～②セラプレイ的遊びを体験してみよう～ 第 13 回 児童期に見られる症状とその援助①不登校 第 14 回 児童期に見られる症状とその援助②発達障害 第 15 回 総まとめと試験 ～仮想事例の検討～* *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前準備学習:各授業で扱う授業のキーワードに関して、参考書や授業内で配布される補足資料などに目を通すとともに、子どもや家族に関するテレビや小説、映画などを子育てを巡る“心の動き”という観点から観ること。(作品紹介を各回の感想シートにて求める)(学習時間:2時間) 授業後学習:授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理。(学習時間:2時間)
授業方法	・遠隔授業 基本的に講義を中心とした比較的専門性の高い内容とする。必要に応じて映像資料や絵本や写真など視聴覚的な資料を用いることや、ロールプレイなどの体験学習を用いる。
履修上の注意	欠席が5回を超える場合には単位を認定しない。また遅刻は2分の1欠席として計算する。 15分以上の遅刻は欠席として扱うものとする。
教科書	特に指定せず、授業内にて資料を配布する。
参考書	藤本浩一・金網知征・榎原久直(2019)読んでわかる児童心理学. サイエンス社. ISBN:978-4781914541 木部則雄(2006)こどもの精神分析 クライン派・対象関係論からのアプローチ. 岩崎学術出版社 ISBN:978-4753306091

心理療法C

前期 4/9(金)～

坂本 真佐哉

金曜 9:00～10:30

授業のテーマ	さまざまな心理療法について学ぶ－Ⅲ. 家族療法(システムズアプローチ)およびブリーフセラピーの理論と実際
授業の概要	心理療法には、さまざまな学派(考え方)、またさまざまな対象がある。心理学科専門教育科目「心理療法」では、講師の専門性に応じたさまざまな心理療法について学ぶ。 「心理療法C/心理療法Ⅲ」では、家族システムやコミュニケーション・システムの変化をめざした心理療法をはじめ、解決構築など近年の社会構成主義心理療法の分野について実際の事例を交えながら講義を行う。心理療法における「問題」の捉え方とその解決に関する考え方などについて、システム論や社会構成主義の観点から学び、さまざまな角度から物事をとらえる視点や考え方を養う。
到達目標	1. 家族療法(システムズアプローチ)およびブリーフセラピーの主要な理論と用語について説明することができる。【知識・理解】 2. 身近な心の問題について、家族療法やブリーフセラピーの概念や用語を用いて解説し、解決策について提案することができる。【知識・理解】【態度・志向性】
授業計画	第1回 心理療法における「問題」の捉え方 第2回 さまざまな心理援助の技法と家族療法、ブリーフセラピー 第3回 家族療法の理論と実際(1)家族療法とシステム論 第4回 家族療法の理論と実際(2)家族療法の実際 第5回 ブリーフセラピー概論 第6回 ミルトン・エリクソンの心理療法 第7回 MRIモデルの理論と技法(1)変化の理論 第8回 MRIモデルの理論と技法(2)コミュニケーション理論 第9回 ソリューション・フォーカスト・アプローチの理論と技法(1)基本的な考え方と特徴 第10回 ソリューション・フォーカスト・アプローチの理論と技法(2)解決構築とは？ 第11回 ソリューション・フォーカスト・アプローチの理論と技法(3)質問技法の実際 第12回 ナラティブ・セラピー(1)社会構成主義の理論 第13回 ナラティブ・セラピー(2)会話の実際 第14回 ナラティブ・セラピー(3)事例を中心に 第15回 試験と総括* *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前準備学習:各回で扱う内容や用語について家族療法やブリーフセラピーの関連書にて予習(学習時間:90分以上) 授業後学習:授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理(学習時間:90分以上)
授業方法	講義形式であるが、授業中に与えられたテーマに関して、ペアもしくはグループでディスカッションを行う。各回の授業終了時にリアクションペーパーを記入する。
履修上の注意	毎回プリントを配布する。欠席した際のプリントについては、次の回に限って再配布する。 リアクションペーパーについては、クラス内において開示されても良い内容について記述すること。
教科書	プリント資料を配布する。
参考書	坂本真佐哉著「今日から始まるナラティブ・セラピー:希望をひらく対人援助」日本評論社 遊佐安一郎著「家族療法入門―システムズ・アプローチの理論と実際」星和書店 坂本真佐哉、和田憲明、東 豊著「心理療法テクニックのススメ」金子書房

心理療法D

小松 貴弘

後期 9/28(火)～

火曜 13:10～14:40

授業のテーマ	さまざまな心理療法について学ぶ ーD/IV. 対人関係精神分析
授業の概要	心理療法には、さまざまな学派(考え方)、またさまざまな対象がある。心理学科専門教育科目「心理療法」では、講師の専門性に応じたさまざまな心理療法について学ぶ。 「心理療法 D/IV」では、対人関係精神分析について学ぶ。対人関係精神分析は、サリヴァンを源流とする考え方であり、フロイトの精神分析がより生物学的要因を重視するものであったのに対して、社会的要因を重視したことに特徴がある。この立場の基本的な考え方と技法を学ぶとともに、心理療法の基礎の基礎から学ぶ。
到達目標	(1)心理療法がどのような営みであり、どのような過程で学ばれるものであるかについて説明できる。【汎用的技能】 (2)対人関係精神分析の基本的な考え方と心理療法の進め方を説明できる。【知識・理解】
授業計画	第1回 オリエンテーション:心理療法を学ぶ意味と心の捉え方 第2回 心理療法の前提(1):心の健康と悩み 第3回 心理療法の前提(2):心の成長 第4回 心理療法の本質(1):心理療法とは何か 第5回 心理療法の本質(2):心理療法のまなざし 第6回 心理療法の本質(3):心理療法家の心構え 第7回 心理療法の実際(1):事例の提示 第8回 心理療法の実際(2):クライアントの視点 第9回 心理療法の実際(3):セラピストの視点 第10回 心理療法の実際(4):面接関係で起きること 第11回 対人関係精神分析を学ぶ(1):サリヴァンのパーソナリティ論 第12回 対人関係精神分析を学ぶ(2):サリヴァンの発達論 第13回 対人関係精神分析を学ぶ(3):サリヴァンの心理療法論 第14回 対人関係精神分析を学ぶ(4):心理療法の標準的な過程 第15回 授業のまとめと期末試験* *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前には各回の授業テーマについて関連する文献に目を通しておくこと。<2時間> 授業後には授業内容を振り返り要点を確認して理解を深めること。<2時間>
授業方法	講義を行うとともに、適宜、小グループでのディスカッションや演習を行う。
履修上の注意	私語等の他の受講生への迷惑行為や、授業の妨げとなる行為は厳に慎むこと。注意等が聞き入れられない場合には、他の受講生の学習権の保障のために退室を求めることがある。20分以上の遅刻と早退は欠席として扱う。総授業回数の3分の1以上を欠席した場合には、原則として試験の受験を認めない。
教科書	『時間のかかる営みを、時間をかけて学ぶための心理療法入門』、小松貴弘・渡辺亘・中村博文編著、創元社、2019年、ISBN978-4-422-11721-8
参考書	『対人関係精神分析を学ぶ』、一丸藤太郎著、創元社、2020年、ISBN978-4422117553 その他、授業中に適宜紹介する。

障害者・障害児心理学

前期 4/14(水)～

榎原 久直

水曜 16:30～18:00

授業のテーマ	身体障害, 知的障害及び精神障害の概要について学ぶとともに, 障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援についての理解の視点を育む。
授業の概要	身体障害, 知的障害及び精神障害の特徴や, そうした困難さを抱える障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援について, 当事者の視点に立って理解するという姿勢を養っていく。
到達目標	1. 代表的な身体障害, 知的障害及び精神障害についての知識を得て, 人に説明ができる。【知識・理解】 【汎用的技能】 2. 障害者・障害児の心理社会的課題について, 当事者の立場に立ってその困難さを具体的に人に説明ができる。【態度・志向性】 【汎用的技能】 3. 障害者・障害児に対する支援について理論や法律, 施設・機関などについて, 人に説明ができる。【知識・理解】 【汎用的技能】
授業計画	第1回 オリエンテーション ～“障碍”とはなんなのだろうか～ 第2回 子どもの心と体の発達 ～発達はどこで生まれるのか～ 第3回 子どもの発達の困難さ ～“関係障碍”と二次障害～ 第4回 障碍のある人の視点に立つということ ～体験ワークと発表グループ作り～ 第5回 “身体障害”ってなんだろう① ～体の不自由さ～ 第6回 “身体障害”ってなんだろう② ～体の不自由さとその支援を体験する～ 第7回 “身体障害”ってなんだろう③ ～目に見えない困難さ～ 第8回 “知的障害”ってなんだろう ～理解の困難さとは～ 第9回 知能や発達を測定すること ～代表的な検査と実施の功罪～ 第10回 “発達障害”ってなんだろう① ～“外”から見る自閉症～ 第11回 “発達障害”ってなんだろう② ～“内”から見る自閉症～ 第12回 “発達障害”ってなんだろう③ ～ADHD, LD, DCDの世界を体験する～ 第13回 様々な支援技法を体験する 第14回 障碍のある人を理解する体験ワークのグループ発表 第15回 振り返りと試験* *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前準備学習: 各授業で扱う授業のキーワードに関して, 参考書や授業内で配布される補足資料などに目を通すとともに, 障碍に関するテレビや小説, 映画などを子育てを巡る“心の動き”という観点から観ること。(作品紹介を各回の感想シートにて求める)(学習時間:2時間) 授業後学習: 授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理。(学習時間:2時間)
授業方法	基本的に講義形式で行うが, 必要に応じて映像資料や絵本や写真など視聴覚的な資料を用いることや, ロールプレイなどの体験学習を用いる。加えて, グループワーク(調べ学習とその成果のプレゼンテーション)を一部行う。
履修上の注意	欠席が5回を超える場合には単位を認定しない。また遅刻は2分の1欠席として計算する。 15分以上の遅刻は欠席として扱うものとする。
教科書	特に指定せず, 授業内にて資料を配布する。
参考書	藤本浩一・金網知征・榎原久直(2019) 読んでわかる児童心理学. サイエンス社. ISBN:978-4781914541 赤木 和重(2018) 目からウロコ!驚愕と共感の自閉症スペクトラム入門. 全国障害者問題研究会出版部. 978-4881347157

青年期の臨床心理学

後期 9/29(水)～

黒崎 優美

水曜 10:40～12:10

授業のテーマ	青年期の諸課題に対する臨床心理学的理解
授業の概要	青年期に関連の深いさまざまな課題について、臨床心理学的接近法に基づき考え、理解を深めます。ワークやグループディスカッションを通して、自らの考えや理解した内容を言語化し、その内容を共有します。
到達目標	①青年期の諸課題について、臨床心理学的な観点から理解し、他者に伝えることができる。【知識・理解】 ②授業を通して得た知識や理解を、自分自身や身近な出来事や社会現象の理解に応用し、それについて他者に伝えることができる。【汎用的技能】 ③臨床心理学への興味・関心を深め、これから学んでいきたいことを明確にし他者に伝えることができる。【態度・志向性】
授業計画	第1回 導入 ～授業の進め方、生涯発達と青年期～ 第2回 青年期の親子関係 第3回 青年期の恋愛・友人関係(1) 第4回 青年期の恋愛・友人関係(2) 第5回 青年期の就活・就労(1) 第6回 青年期の就活・就労(2) 第7回 青年期とひきこもり(1) 第8回 青年期とひきこもり(2) 第9回 青年期の犯罪(1) 第10回 青年期の犯罪(2) 第11回 青年期の精神疾患(1) 第12回 青年期の精神疾患(2) 第13回 個人と集団の精神療法 第14回 まとめと試験* 第15回 課題発表、試験解説 *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前学習: 文献購読、配付資料確認(2時間) 授業後学習: 文献購読、課題(2時間)
授業方法	講義、演習(プレゼンテーション、ディスカッション)
履修上の注意	事前に配付した資料には目を通しておいてください。 主体的に考え言語化する努力をしてください。
教科書	なし。毎回資料を配布します。*過去の資料は松蔭 manaba コンテンツから取得可能。
参考書	適宜紹介します。

成人期・老年期の臨床心理学

後期 9/27(月)～

中村 博文

月曜 9:00～10:30

授業のテーマ	成人期・老年期の心理的課題と危機
授業の概要	本講義では、成人期および老年期における心理的な発達や発達課題、またこれらの時期に生じやすい問題や危機について概観する。その上で、それぞれの時期における臨床心理学的な援助について検討する。
到達目標	(1)成人期・老年期の心理学的特徴について、説明できる。【知識・理解】 (2)成人期・老年期に生じやすい心理学的問題について、説明できる。【知識・理解】 (3)自らのライフサイクルにおける成人期・老年期の意味について推測・考察し、論述できる。【知識・理解】
授業計画	第1回 オリエンテーションー生涯発達論的視座から見た成人期と老年期 第2回 成人期の心理学的特徴と発達課題 第3回 結婚・妊娠・出産 第4回 子育て 第5回 職場における問題(1):ストレスとメンタルヘルス 第6回 職場における問題(2):うつ病と自殺 第7回 老親の介護における心理的問題 第8回 中年期危機 第9回 老年期の心理学的特徴と発達課題 第10回 認知症 第11回 老年期うつと妄想 第12回 老年期における喪失体験 第13回 老年期における死の問題 第14回 まとめ、試験* 第15回 試験解題 *試験の受験は不要。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前準備学習(90分以上):シラバスの授業計画にある用語について、書籍やインターネットを使って事前に調べておく(例:#01は「生涯発達論」、#02は「成人期」「発達課題」、など)。 授業後学習(90分以上):授業で取り上げた内容について、確認整理をしておく。また、授業で紹介した参考文献を読んで、授業の内容についての理解を深めること。
授業方法	講義形式。 毎回の授業において、小レポート(その回の授業で学んだ内容に関する問いについて考えた回答、および質問、感想)を提出することを求める。 なお、提出された小レポートに対しては、次回の授業の冒頭で担当者がコメントを行う。
履修上の注意	毎回の授業で、プリントを配布する。欠席時のプリントについては、次回の授業時に限って再配布する。 私語など、他の受講生の迷惑となる行為については、厳しく注意する。態度が改まらない場合には退席を求めたり、以降の受講を不可とする場合もある。
教科書	なし。
参考書	授業内で、適時紹介する。

教育・学校心理学

黒崎 優美

後期 9/28(火)～

火曜 10:40～12:10

授業のテーマ	教育的課題に対する臨床心理学的理解
授業の概要	教育現場において生じる諸課題及びその背景について、また教育現場における心理社会的課題及び必要な支援について、臨床心理学的接近法に基づき考え、理解を深めます。 ワークやグループディスカッションを通して、自らの考えや理解した内容を言語化し、その内容を共有します。
到達目標	①教育現場において生じる問題及びその背景について説明できる。【知識・理解】 ②教育現場における心理社会的課題及び必要な支援について説明できる。【態度・志向性】 ③授業を通して得た知識や理解を、自分自身や身近な出来事や社会現象の理解に応用し、それについて他者に伝えることができる。【汎用的技能】
授業計画	第1回 導入 ～授業の進め方、チームとしての学校～ 第2回 学校のグループ心性 第3回 教師という仕事 第4回 スクールカウンセラーという仕事 第5回 いじめの心理(1) 第6回 いじめの心理(2) 第7回 いじめの心理(3) 第8回 不登校の心理(1) 第9回 不登校の心理(2) 第10回 不登校の心理(3) 第11回 学ぶことと心理(1) 第12回 学ぶことと心理(2) 第13回 学ぶことと心理(3) 第14回 まとめと試験※ 第15回 課題発表、試験解説 ※試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前学習: 文献購読、配付資料確認(2時間) 授業後学習: 文献購読、課題(2時間)
授業方法	講義、演習(プレゼンテーション、ディスカッション)
履修上の注意	事前に配付した資料には目を通しておいてください。 主体的に考え言語化する努力をしてください。
教科書	なし。毎回資料を配布します。※過去の資料は松蔭 manaba コンテンツから取得可能。
参考書	適宜紹介します。

対人コミュニケーション論

待田 昌二

後期 9/27(月)～

月曜 14:50～16:20

授業のテーマ	対面的コミュニケーション、特に非言語コミュニケーションの理解
授業の概要	我々は人と出会ったときにまず外見から、次いで言葉、表情、動作などから情報を得、同時に自分自身も多くの情報を発している。情報の発信と解読はほとんど無意識的に行われている。 このような過程、特に非言語コミュニケーションについて学んでいく。人間のコミュニケーションの能力は進化の過程で獲得してきたものなので、動物のコミュニケーションと比較しながら理解を進める。急速に変化する現代社会は人類の歴史において非常に特殊な社会である。例えば、ほぼ全員が顔見知りというコミュニティでの生活から、見知らぬ人間と頻繁に出会い新しい関係を作り上げていく生活に変わった。このような現代社会のコミュニケーションについても考えていく。
到達目標	(1) 対面的コミュニケーション、特に非言語コミュニケーションの種類と特徴及び対応する心の働きを説明できる。【知識・理解】 (2) 日常の対面的コミュニケーション、特に非言語的な情報のやり取りを分析できるようになる。【汎用的技能】
授業計画	第1回 非言語的コミュニケーションの重要性、なぜヒトは顔にこだわるのか 第2回 姿かたち—なぜ様々な顔があるのか 第3回 姿かたち—顔立ちから性格はわかるか 第4回 姿勢としぐさ—感情の伝達 第5回 姿勢としぐさ—様々なしぐさ 第6回 表情—表情とは何か 第7回 表情—笑いと表情の統制 第8回 情動反応 第9回 目は心の窓:目に表れる情動反応 第10回 目は心の窓:視線と視線回避 第11回 対人距離、行動観察 第12回 行動観察の補足と達成度確認試験* 第13回 嘘は見破れるか 第14回 印象管理—服装・髪型 第15回 社会的スキルと達成度確認試験の解説 期末試験* *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前学習: 松蔭 manaba で授業前に示す課題を行う(学習時間 1 時間) 授業後学習: 松蔭 manaba で授業後に示す課題を行うとともに授業内容を試験に結実させるよう復習し、身近な問題に結び付けて考える(学習時間3時間)
授業方法	講義: 松蔭 manaba を利用した遠隔授業。 授業前学習、授業後学習、試験についても松蔭 manaba を利用。
履修上の注意	授業時間内に松蔭 manaba から受講すること、manaba で示す授業前学習、授業後学習を行うこと。
教科書	使用しない。
参考書	Web上で紹介している。「神戸松蔭心理学のページ」で検索するか、松蔭 CampusLink から、「心理学のページ」→「参考図書紹介(待田)」→「非言語コミュニケーション」

ジェンダーの心理学

前期 4/14(水)~

土肥 伊都子

水曜 10:40~12:10

授業のテーマ	ジェンダー(男女の社会的役割)についての心理学を学ぶ
授業の概要	男女に対する固定観念が、ジェンダー・ステレオタイプである。本講義では、ジェンダー・ステレオタイプがなぜ作られ、それがどのように維持されるのか、あるいはいかに変容するかを社会心理学の知見に基づき学習する。
到達目標	人の行動や心の状態を、適切な方法で把握し、分析することができる。【汎用性技能】 ジェンダー社会を維持するしくみを理解することができる。【知識・理解】 自分自身に向き合い、深い自己理解をし、ジェンダー・ステレオタイプから自由に生きるための方法を考えることができる。【知識・理解】
授業計画	第1回 ジェンダーへの心理学的アプローチ 第2回 セックスとジェンダー 第3回 ジェンダー・ステレオタイプの形成と維持 第4回 ジェンダー・スキーマ 第5回 集団とジェンダー・ステレオタイプ 第6回 性別分業社会とジェンダー・ステレオタイプ 第7回 ジェンダーの社会化(1)子ども自身の認知発達 第8回 ジェンダーの社会化(2)子どもを取り巻く環境 第9回 ジェンダーによる心身への影響(1) 第10回 ジェンダーによる心身への影響(2) -精神疾患の性差, 役割行動- 第11回 心理学の学問におけるジェンダー・ステレオタイプ 第12回 ジェンダーに基づく偏見と差別 第13回 ジェンダー・ステレオタイプの軽減 第14回 前期授業の質疑応答・補足・調査結果のフィードバック 第15回 まとめ *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前準備学習:各回授業で扱う教科書の該当箇所を予習すること。(学習時間:2時間) 授業後学習:授業内容に関連した新聞記事や書籍を見つけて、manaba にその記事の内容を投稿する。 (学習時間:2時間)
授業方法	・遠隔授業
履修上の注意	教科書を必ず用意すること
教科書	「ジェンダーの心理学」 青野篤子・森永康子・土肥伊都子(著)(ミネルヴァ書房) ISBN:9784623041534
参考書	

子育て支援の心理学

後期 10/1(金)～

榎原 久直

金曜 14:50～16:20

授業のテーマ	子育てとその支援について、社会・地域・個人の観点から基礎的な知識を学ぶとともに、子育ての中で生じる感情について考える。
授業の概要	子育てに関する発達心理学・臨床心理学・社会福祉的な知見を学びながら、子育ての中で生じる様々な困難さやその支援についての基礎的な知識を学ぶ。
到達目標	1.子育てやその支援をする上で必要となる資源(機関や法律など)についての知識を持ち、人に説明できる。【知識・理解】 2.子育てという日常の営みが持つ楽しさと苦しさをどちらも理解することができる。【汎用的技能】 3.子育て支援について様々な立場からできることを考える視点を持つことができる。【汎用的技能】
授業計画	第1回 オリエンテーション ～子育てを支援すること～ 第2回 妊娠から出産まで ～親はいつから親になるの?～ 第3回 乳児の子育て① ～子どもに心はいつから宿るの?～ 第4回 乳児の子育て② ～ママだから子育てができるの?～ 第5回 家庭の中で生じる困難さ① ～“虐待”してしまう思い～ 第6回 家庭の中で生じる困難さ② ～子育てにパパって必要?～ 第7回 子育てを取り巻く環境 ～育て方と働き方～ 第8回 幼児の子育て① ～自分の形ができ始める頃～ 第9回 幼児の子育て② ～家庭以外の子どもの過ごす場所ってどこ?～ 第10回 ふりかえりと中間試験* 第11回 子育て支援における“聞き方”を学ぼう 第12回 “ほどよい”子育てについて考えよう 第13回 セラプレイの遊びから学ぶ親子の関係支援 第14回 子どもに必要な安心感 ～アタッチメントと安心感の輪①～ 第15回 親だって必要な安心感 ～アタッチメントと安心感の輪②～ *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前準備学習:各授業で扱う授業のキーワードに関して、参考書や授業内で配布される補足資料などに目を通すとともに、子どもや家族に関するテレビや小説、映画などを子育てを巡る“心の動き”という観点から観ること。(作品紹介を各回の感想シートにて求める)(学習時間:2時間) 授業後学習:授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理。(学習時間:2時間)
授業方法	基本的には講義形式を用いる。必要に応じて映像資料や絵本や写真など視聴覚的な資料を用いることや、ロールプレイなどの体験学習を用いる。
履修上の注意	欠席が5回を超える場合には単位を認定しない。また遅刻は2分の1欠席として計算する。15分以上の遅刻は欠席として扱うものとする。
教科書	特に指定せず、授業内にて資料を配布する
参考書	大豆生田啓友・太田光洋・森山史朗(編)(2014)『よくわかる子育て支援・家庭支援論』ミネルヴァ書房。ISBN:978-4-623-06948-4

ファッション史

井上 裕之

後期 9/28(火)~

火曜 13:10~14:40

授業のテーマ	古代から現在にいたるまでの服装の流れを社会的・心理的な面も踏まえながら学ぶ。
授業の概要	ファッション史では、これまで孤立して捉えられてきた服飾の歴史を、美術や芸術、デザインなどの他分野、その時代の社会との関係性の中で学んでいく。また服飾の歴史は現在のファッションデザイナーにとっても重要なインスピレーション源となっており、それらがデザインとしてどのように表現されているのか事例を紹介し、過去と現在を繋げて考えていく。特に、現代衣服の基礎が確立した 20 世紀前半のモードに焦点をあて、服飾の歴史の流れ、変遷要因、美意識について読み解く。
到達目標	(1)各時代、地域における服装の変遷と生活文化の関わりを理解し、自分の言葉で文章にまとめることができる。(知識・理解) (2)各時代、地域における服装について、その特徴を理解し、当時の流行を分析することができる。(汎用的技術) (3)各時代・地域における服装を、デザイン等に活かせるインスピレーション源として捉えることができる。(態度・志向性)
授業計画	第 1 回 オリエンテーション、人はなぜ服を着るのか：15 回の授業について。人はなぜ服を着るのか考える。 第 2 回 古代・中世の服飾：壁画、彫刻、挿絵を手がかりに古代・中世の服飾形態を読み取る。 第 3 回 16 世紀から 18 世紀の服飾：絵画などを用い、16 世紀から 18 世紀の衣服形態と装飾にふれる。同時に各世紀におけるバロックやロココなどの美意識について。 第 4 回 19 世紀の服飾：ペチコートで膨らませた、クリノリン・スタイル、パッサル・スタイルへと形態変化していく女性の服飾について。また、改良服への取り組み、アール・ヌーヴォー等の芸術運動との関係性を知る。 第 5 回 20 世紀前半の服飾①：ファッション分野におけるコルセットをつけない衣服の取り組みについて。ポール・ポワレ、マリアノ・フォルチュニー、マドレーヌ・ヴィオネをはじめとする新たな衣服デザインについて。 第 6 回 20 世紀前半の服飾②：ガブリエル・シャネルを中心に、女性の社会進出と現代服、世界大戦とファッションについて。 第 7 回 1950 年代：クリスチャン・ディオールを中心に、戦後の新しい衣服デザイン、オートクチュール黄金期について。 第 8 回 1960・70 年代①：ブレタポルテの台頭について、イヴ・サンローランや KENZO などを例に見ていく。また、アメリカを中心としたポップ・アートとの関係について。 第 9 回 1960・70 年代②：ロンドンでのストリートファッションの隆盛について、マリー・クワントやヴィヴィアン・ウエストウッドを例に見ていく。 第 10 回 1980 年代①：1980 年代における三宅一生、山本耀司、川久保玲をはじめとする日本人デザイナーによる新しい価値観とパリ・モードについて。 第 11 回 1980 年代②：日本人デザイナーにより提案された新たな価値観を、映像資料をもとに読み解く。 第 12 回 1990 年代①：ベルギー出身のデザイナー、マルタン・マルジェラ、アントワープ 6 を中心に、各国のモード学校の活動について。 第 13 回 1990 年代②：90 年代以降顕著となる、アートとファッションの関係性について読み取る。 第 14 回 2000 年代：東京コレクションを中心に、他国からも注目を集める日本の様々なスタイルの独自性について考え、自分たちの身近に存在するファッションに目を向けてみる。 第 15 回 これからのファッション：エコ、ユニバーサルファッション、毛皮の問題など、現在ファッションが取り組むことを求められる問題について考える。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前事前学習：授業計画を参考に、キーワード、デザイナー名などについて調べる。(学習時間 2 時間) 授業後学習：授業で学んだ内容について、時代背景を踏まえながら、要点をまとめる。(学習時間 2 時間)
授業方法	講義 授業の要所では、テーマについてグループで調査し、プレゼンテーションをおこなう。
履修上の注意	提出物の締め切りは、厳守すること。
教科書	毎回資料を配布する。
参考書	深井晃子著『ファッションの世紀 共振する 20 世紀のファッションとアート』平凡社 ISBN:978-4582620344 深井晃子編著『世界服飾史』美術出版社 ISBN:978-4568400779

ジェンダーとファッション

戸田 賀志子

前期 4/13(火)～

火曜 14:50～16:20

授業のテーマ	ジェンダーの視点からみるファッション
授業の概要	ファッションはジェンダーとどのようにかかわってきたのか、日々更新され続けているテーマについてメディア(新聞・雑誌、映画、テレビ、写真、インターネットなど)をはじめ視覚資料を多用することによって歴史的に跡づけ、今日的な問題として捉えるための基本的な考え方への導入を図る。
到達目標	(1)ジェンダーの概要をファッションとのかかわりを通じて考え、他者にわかりやすく説明することができる。【知識・理解】 (2)ヒトと衣服の関係性をジェンダーの視点から捉え、具体的にわかりやすい文章で述べる【汎用性技能解】 (3)課題について討議、発表することができる。【態度・志向性】
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 ジェンダーとは 第3回 メディアにみるジェンダーファッション 第4回 発表 第5回 『ボーイスカート』を読む 第6回 発表 第7回 ジェンダーと表象 第8回 ジェンダーと色 第9回 ジェンダーと制服 第10回 発表 第11回 スカートとズボンの表象 第12回 ファッションにみるジェンダー シャネル 第13回 ファッションにみるジェンダー カルダンとサンローラン 第14回 ジェンダーフリーファッション 第15回 まとめ
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前学習:メディア(新聞、雑誌、映像、インターネット)などを通じ、ジェンダーやファッションイメージに意識的に触れ、日常にある「らしさ」を見つける。事前に指定されたキーワードに基づいて下調べを行う(学習時間:2時間) 授業後学習:授業で取り上げた内容を確認、整理する。要点をまとめる。(学習時間:2時間)
授業方法	講義:事前に予習を済ませた各回授業のキーワードに基づいた内容の解説・講義を行う。学習内容によっては、グループワークやディスカッションを行う。視聴覚教材(パワーポイントやDVD)を活用し、理解を深める。今日的な話題については、授業中にPCを用いて、最新情報を調査・検討する。結果をレポートにまとめ提出する。
履修上の注意	出席が授業回数の3分の2に満たない場合は、受講資格を失う。
教科書	とくに定めない。
参考書	必要に応じて授業中に紹介する。

阪神デザイン論

徳山 孝子

前期 4/14(水)～

水曜 10:40～12:10

授業のテーマ	郊外住宅地の形成、阪神間の建築、ライフスタイル、美術、文学、娯楽などあらゆる角度から「阪神間モダニズム」をとらえる。
授業の概要	江戸時代に商都として栄えた大阪、明治以降に西洋文化の玄関口となった神戸に挟まれた阪神間は歴史的にも特有の文化が形成された地域であり、「具体」に見られるように近代美術の歴史にも深い影響を与えている。こうした阪神地域から輩出したファッション、ハウジング領域を中心とするデザイナー達の活躍を紹介し、地域に固有な文化的・経済的背景を基礎とするデザインの特質を理解することで、地域に根差した生活文化・ライフスタイルを形成するデザインの可能性を探る。
到達目標	1) 阪神間の特徴をランドマークを使い地図に描くことができる【汎用的技能】 2) 阪神間の衣、食、住、芸術の一つを取り上げ、述べるができる【知識・理解】 3) 阪神間のファッション文化を説明することができる【知識・理解】 4) 阪神間のライフスタイルの特徴をコミュニケーションできる。【汎用的技能】
授業計画	第1回 オリエンテーション(課題テーマ、方針・進め方の説明) 第2回 阪神間とは 第3回 阪神間を築いた交通と郊外住宅地 第4回 阪神間と園の文化 第5回 阪神間のライフスタイル 第6回 阪神間に生きた建築家とその作品 第7回 ホテル文化のさきがけ 第8回 阪神間の食文化(宮水や炭酸飲料など) 第9回 雑誌「ファッション」から阪神間ファッションの紹介 第10回 阪神間のファッションデザイナーたち 第11回 阪神間の芸術家たち①:(画家) 第12回 阪神間の芸術家たち②:(具体メンバー) 第13回 阪神間の芸術家たち③:(音楽家や写真家) 第14回 阪神間の芸術家たち④:(グラフィックデザイナー) 第15回 宝塚歌劇と神戸・阪神間の関係性について
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前準備学習:授業内で説明する。(学習時間 90 分) 授業後学習:学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中内にできなかった課題は完成させる。(学習時間 90 分)
授業方法	講義: ①遠隔授業である。 ②松蔭 manaba とオンライン授業を併用する。 ③松蔭 manaba の掲示板、小テスト、プロジェクトを使用し、コミュニケーションをはかる。 ④各回設定のテーマで資料を配布する。資料に沿って講義するため、授業準備学習と授業後学習に使用する。 ⑤テーマの導入を図る練習問題について、グループまたペアによるディスカッションを行う。
履修上の注意	①10 回以上の出席がないと、受講資格を失う。 ②松蔭 manaba のアクセス(出欠確認)は、10 時 40 分から 45 分までとする。遅刻は、欠席扱いとする。尚、オンライン授業においても出欠をとる。オンライン授業に参加していない学生は、欠席扱いとする。 ③指定する課題は締切までに必ず提出する。
教科書	教科書としては、特に用いないが、松蔭 manaba に資料を添付する。
参考書	授業中に紹介する。

インテリア史

米原 慶子

後期 9/28(火)～

火曜 13:10～14:40

授業のテーマ	インテリアデザインの歴史
授業の概要	古代から近現代にいたる主要なインテリアデザインの歴史を、西洋と日本を対比しながら学ぶ。 西洋古典と日本伝統の建築様式の変遷や、モダンデザインの黎明期からアール・ヌーヴォー、アール・デコの造形運動、1920～30年代のムーブメントを経て戦後から近年に至るまでに、欧米や日本で生み出された優れた空間デザインやインテリアエレメントの事例とその背景についての理解を深める。 ヴィジュアルな資料を多用し、幅広いデザインの教養を身につけると共に、インテリアコーディネーター資格試験対策としての問題解説も行う。 キーワード:インテリア、デザイン史、デザイナー
到達目標	(1)インテリア史上、主要なデザイン様式の違いを見分けることができる。(知識・理解) (2)著名なくつかのインテリアエレメントについて、デザインの特徴や背景、デザイナーを説明できる。(知識・理解) (3)各自の特に好きなデザイン作品とデザイナー名をいくつか挙げるができる。(知識・理解)
授業計画	第1回 ガイダンス(授業の概要, 進め方と学習目標など) 椅子とあかりの基礎知識 第2回 西洋古典の空間とインテリアエレメントー古代・中世 第3回 西洋古典の空間とインテリアエレメントー近世 第4回 問題解説①ー西洋古典のインテリア、 日本伝統の空間とインテリアエレメントー古代 第5回 日本伝統の空間とインテリアエレメントー中世・近世 第6回 身近にある西洋古典と日本伝統の空間の事例見学(学外見学・研修実施予定) (旧ハンター住宅と竹中木工道具館、土曜日に振替で行う) 第7回 日本とヨーロッパの民家・町家 問題解説②ー日本伝統の空間とインテリアエレメント 第8回 モダンデザインの黎明ージャポニズム/万国博覧会 第9回 明治の日本 アール・ヌーヴォー(新しい芸術)のデザイン 第10回 初期近代建築と1910-30年代のデザイン・ムーブメント 第11回 バウハウスと巨匠達の時代とデザイン 第12回 北欧のモダンデザイン 問題解説③ー近代のインテリア 第13回 ミッド・センチュリーのアメカ・イタリア 日本の近代化 第14回 ポスト・モダニズムの時代 問題解説④ー日本の近代化 第15回 期末試験、補足とミニレポートのまとめ* *試験は希望者のみ受験。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前準備学習:各回の授業前にテキストの該当部分を読み、参考資料を下調べしておくこと。(学習時間:2時間) 授業後学習:各回の授業で参考資料を紹介するので、興味のあるテーマについて、学習を深めること。 テーマ関連の建築やショールーム見学を積極的に行うのが望ましい(学習時間:2時間)。
授業方法	講義(スライドレクチャー)、問題解説(インテリアコーディネーター試験過去問題など)を組み合わせで行う。毎回のミニレポートをチェックバックすることで、双方向型の授業とする。
履修上の注意	配布資料をまとめる専用のファイルを各自購入のこと。 詳細は授業中に説明する。 学外研修で必要な入場料、交通費は学生各自の負担とする。
教科書	「インテリアコーディネーターハンドブック統合版上巻」 (他のインテリア科目と共用あり) 発行:公益社団法人 インテリア産業協会 発売:一般財団法人 経済調査会 ISBN978-4-86374-142-3

参考書	<p>「インテリアコーディネーター1次試験 過去問題徹底研究 2021 上巻」 発行:ハウジングエージェンシー</p> <p>「増補新装 カラー版 世界デザイン史」 監修:阿部公正 出版社:美術出版社 ISBN-10:4568400848</p> <p>その他、授業中に紹介する。</p>
-----	--

早期英語教育基礎

後期 9/30(木)～

山内 啓子

木曜 10:40～12:10

授業のテーマ	英語教員としての基本的な指導能力を身に付ける
授業の概要	小学校で教科化される英語教育に関する歴史的背景を概観し理解することでその必要性を認識し、早期英語教育の理論について基礎的なことを学ぶ。特に音声認知が柔軟である小学生の発達段階を考慮して日本語との差異に注目しながらの基礎的な音声理解や、文字と音との関連を学ぶことで初学者の英語に対する理解を深める。また早期英語教育で必要とされる日常表現や慣用表現を体得するために学校文法では通常学ばないような表現が散見される英語絵本を活用する。英語絵本の教材適性を考察し、音読練習・読み聞かせ練習を行いながら自らの技能・表現力の拡充を促す。
到達目標	小学校での外国語活動・教育の背景が分かり、必要性が認識できる。早期英語教育理論の基礎的なことを理解し、教材に対する基本的な活用能力を身に付ける。【知識・理解】【汎用的技能】
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション: 早期英語教育とは</p> <p>第2回 児童期の語学学習</p> <p>第3回 小学校外国語活動・外国語の背景1: 学習指導要領の変遷と今後</p> <p>第4回 小学校外国語活動・外国語の背景2: 小学校英語の経緯</p> <p>第5回 小学校外国語活動・外国語の背景3: 現状と課題</p> <p>第6回 小学校外国語活動・外国語の指導者1: 指導に必要な実践力</p> <p>第7回 小学校外国語活動・外国語の指導者2: 指導者と研修</p> <p>第8回 小学校外国語活動・外国語の指導者3: ALT との TT</p> <p>第9回 小学校外国語活動・外国語指導の教材1: 教材のいろいろ</p> <p>第10回 小学校外国語活動・外国語指導の教材2: 応用</p> <p>第11回 小学校外国語活動・外国語指導: 絵本の活用法</p> <p>第12回 小学校外国語活動・外国語指導: 絵本の音読・読み聞かせ</p> <p>第13回 小学校外国語活動・外国語指導: 音声指導・訓練</p> <p>第14回 児童期の語学学習の課題と今後に向けて</p> <p>第15回 授業のまとめと試験*</p> <p>*試験は希望者のみ受験。</p>
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前準備学習: 各回授業で扱う教科書の当該箇所を予習し、指定された課題について下調べを行うこと。また英語の児童書・絵本を多読し記録をつけること(平均学習時間: 2時間) 授業後学習: 授業内で指定された課題について指示されたように作成したり、松蔭 manaba での小テストを行うこと(平均学習時間: 2時間)
授業方法	各回のテーマに沿って解説・講義、またテーマに応じて適宜演習を行う。 ペアワークやグループワークによる演習や、各回のテーマに応じてプレゼンテーションも多用する。
履修上の注意	予習復習、課題を誠実に行うこと。
教科書	村野井仁(編著)『小学校英語教育の基礎知識』大修館書店(2018年)
参考書	文部科学省 中学校学習指導要領解説(平成29年3月) 小学校学習指導要領解説(外国語活動・外国語編)(平成29年告示)

個別の教育支援計画論

谷川 弘治

後期 9/25(土)～

土曜 13:10～14:40

授業のテーマ	個別の教育支援計画を検討するシステムと検討過程を学ぶ。
授業の概要	<p>本科目は特別支援教育に関する科目である。</p> <p>「個別の教育支援計画」とは、「障害のある幼児児童生徒の一人一人のニーズを正確に把握し、教育の視点から適切に対応していくという考えの下、長期的な視点で乳幼児期から学校卒業後までを通じて一貫して的確な支援を行うことを目的として策定されるもので、教育のみならず、福祉、医療、労働等の様々な側面からの取組を含め関係機関、関係部局の密接な連携協力を確保することが不可欠であり、教育的支援を行うに当たり同計画を活用することが意図されている（「特別支援教育を推進するための制度の在り方について（答申）」中央教育審議会、平成17年12月）。</p> <p>本授業では特別支援教育の実践が個々のニーズに応じた長期的見通しをもった取り組みであること、さまざまな関係機関や専門職との協働によって成立するものであることへの理解を深めるため、入門期の学生がその合理的配慮を把握しやすい病弱児の模擬事例を用いて、「個別の教育支援計画」を検討するシステムと検討過程を学ぶ。なお、病弱教育の場合、とくに入院した子どもを対象とする場合は、特別支援学校(学級)と入院していなければ在籍している地域の学校(特別支援学校を含む)があるという特殊性を踏まえておきたい。</p>
到達目標	<p>1) 特別支援教育の実践が個々のニーズに応じた長期的見通しをもった取り組みであること、さまざまな関係機関や専門職との協働によって成立するものであることを自分の言葉で説明できる。</p> <p>2) 「個別の教育支援計画」を検討するシステムと検討過程を説明できる。</p>
授業計画	<p>第1回 「個別の教育支援計画」と個別の指導計画の役割とPDCAプロセス</p> <p>第2回 「個別の教育支援計画」を検討するシステムと関与する医療、福祉、労働等の機関の役割</p> <p>第3回 病弱児の「個別の教育支援計画」の視点と検討過程</p> <p>第4回 入院中の病弱児の「個別の教育支援計画」の立案①幼児</p> <p>第5回 入院中の病弱児の「個別の教育支援計画」の立案②小学生</p> <p>第6回 入院中の病弱児の「個別の教育支援計画」の立案③中学生</p> <p>第7回 入院中の病弱児の「個別の教育支援計画」の立案④高校生</p> <p>第8回 入院中の病弱児の「個別の教育支援計画」の調整①退院時</p> <p>第9回 入院中の病弱児の「個別の教育支援計画」の調整②後遺障害を残しての退院時</p> <p>第10回 入院中の病弱児の「個別の教育支援計画」の調整③エンドオブライフケアへの移行時</p> <p>第11回 地域で暮らす病弱児の「個別の教育支援計画」①自宅療養を続ける病弱児</p> <p>第12回 地域で暮らす病弱児の「個別の教育支援計画」②地域の学校において合理的配慮が必要な病弱児</p> <p>第13回 地域で暮らす病弱児の「個別の教育支援計画」③成人医療への移行と就労支援</p> <p>第14回 子どもと家族の情報の扱いと多職種コミュニケーション</p> <p>第15回 特別支援教育コーディネーターに求められるもの 期末テスト*</p> <p>*試験は希望者のみ受験。</p>
授業外における学習 (準備学習の内容)	<p>授業前準備学習: 事前課題を提示するので、取り組んで授業に参加する。(30分程度)</p> <p>授業後学習: 適宜、事前課題と授業の振り返りを行う。リアクションペーパーに関する解説を配付するので目を通し、他者(他の受講生)の視点に学ぶことが望ましい。(10分程度)</p>
授業方法	講義、事前課題の発表、ペアあるいはグループワーク、リアクションペーパーの解説などを組み合わせる。
履修上の注意	<p>各回の講義資料及び事前課題は、原則として前の授業までに配付あるいは提示する。</p> <p>リアクションペーパー及びリアクションペーパー解説は、授業の開始時に配付する。</p> <p>はじめて考える課題も多いと思われるが、入門期の学修であるので、疑問に感じたこと、自分なりの判断など、自信の有無にかかわらず他者に伝えること、他者の思いに耳を傾け自らを振り返ることを大切にしたい。授業回数の3分の1以上を欠席したものは期末試験の受験資格を失うものとする。</p>
教科書	適宜、講義資料を配付する。

<p>参考書</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・『特別支援学校幼稚部教育要領, 小学部・中学部学習指導要領, 高等部学習指導要領』, 文部科学省, 2016 ・『多職種合同ワークショップ「病気の子どもへのトータルケアセミナー」研修プログラム集 第8集:表現力を高める 医療現場での対話と実践を振り返り, 共有するために』, 谷川弘治ほか, (http://k-tanigawa.com) ・『多職種合同ワークショップ「病気の子どもへのトータルケアセミナー」研修プログラム集 第2集:個別支援計画の立案と実施』, 谷川弘治, (http://k-tanigawa.com) ・『病弱・虚弱児の医療・療育・教育』, 改定第3版, 宮本信也・土橋圭子(編), 金芳堂, 978-4-7653-1627-9 ・『特別支援教育の基礎・基本』, 新訂版, 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所, ジアース教育新社, 978-4-86371-297-3 ・『病気の子どもへの教育支援ガイド』, 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所, ジアース教育新社, 978-4-637-1406-9 ・『病弱教育における各教科の指導』, 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所, ジアース教育新社, 978-4-8637-1333-8 ・『病気の子どもへの心理社会的支援入門 医療保育・病弱教育・医療ソーシャルワーク・心理臨床を学ぶ人へ』 第2版, 谷川弘治ほか(編), ナカニシヤ出版 978-4-7795-0289-7 ・『18トリソミー 子どもへのよりよい医療と家族支援をめざして』, 櫻井浩子・橋本洋子・古庄和己(編) メディカ出版, 978-4-8404-5314-1 ・『障害のある子の支援計画作成事例集 発達を支える障がい児支援利用計画と個別支援計画』, 日本相談支援専門員協会(編), 中央法規, 978-4-8058-5292-7
------------	---

特別支援教育と共生社会

谷川 弘治

後期 9/25(土)~

土曜 14:50~16:20

授業のテーマ	生きることと死ぬことをめぐる人々の思い、いのちを支える人々の努力と思いに目を向け、子どもたちにいのちの大切さを伝えるためになすべきことを考える。
授業の概要	本科目は特別支援教育に関する科目である。 教師はいのちと向き合い、発達しようとする傾向を子どもの中に見つけ、育む専門職である。現代社会は子どものいのちを守る仕組みを作り上げ、新生児死亡率等を減少させるなど大きな成果を得てきた。一方で事件、事故、災害、自死、難病など、さまざまな理由で失われていくいのちもある。全般に、人々が子どもの死による「痛み」と向き合う機会が減少する中、遺族は思いを受け止めてもらえないもどかしさや孤立感をいなくすることが少なくない。本講は、こうした状況を遠くの出来事ではなく、身近なこととして捉える機会を提供する。特別支援教育を担う教員を目指すものとして、主に、病気や障害によって、いのちと向き合わざるをえない子どもと家族と支援者とのかかわりを取り上げ、ロールプレイやグループディスカッション等をおとして支援者の視点を学ぶ。 クラスメイト、遺族、親を亡くした子どもなど視野を広げ、教師としてできることを探求し、共生社会に求められるものを考察していく。
到達目標	1. 生きることと死ぬことをめぐって生ずる人々の思いに耳を傾けることができ、自らの思いにも耳を傾けることができるようになる。 2. 病気や障害のある子どものもつ生きようとする傾向とそれを支える人々の相互作用に目を向け、生きることを支えるとはどういうことかを自分なりに説明できる。 3. 病気や障害のある子どものいのちを支える現場で生ずるさまざまな状況、葛藤に目を向け、判断のための視野を広げる必要を自覚する。 4. いのちの教育の動向と課題を理解し、特別支援教育を担う教師を目指すものとして仲間と協力して対象と場面を想定した実践を計画、試行して、振り返ることができる。
授業計画	第1回 子どものいのちをめぐる人々の努力と問題状況 第2回 いのちと向き合う①「いのちを迎える」 第3回 いのちと向き合う②「病を生きる」 第4回 いのちと向き合う③「死を迎える」 第5回 いのちと向き合う④「いのちと別れる」 第6回 病気や障害のためいのちと向き合う子どもと家族を支える①「新生児医療の現場から」 第7回 病気や障害のためいのちと向き合う子どもと家族を支える②「子どものホスピスの現場から」 第8回 病気や障害のためいのちと向き合う子どもと家族を支える③「重症心身障害児者の療育の現場から」 第9回 病気や障害のためいのちと向き合う子どもと家族を支える④「死を迎えた子どもの家族と友達を支える」 第10回 通常教育と特別支援教育におけるいのちの教育の動向と課題 第11回 いのちの授業の計画と実施①「いのちと向き合う子どもとクラスメイトをつなぐ授業」 第12回 いのちの授業の計画と実施②「いのちと向き合う子どもたちに提供する授業における病気や死のテーマの扱い」 第13回 いのちの授業の計画と実施③「いのちと向き合う子どもたちに提供するいのちの授業」 第14回 いのちの授業の計画と実施④「クラスメイトを亡くした子どもたちのためのいのちの授業」 第15回 いのちの授業の計画と実施⑤「思いを共有し、語り継ぐためにできること」 第11回から第15回は、グループを構成し、仲間と協力し、特別支援教育の現場を想定したいのちの授業を計画、試行する。
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前準備学習: 事前課題を提示することがあるので、取り組んで参加する。(60分程度) 授業後学習: 授業中に生じた思い、注目した他者の視点、今後大切にしていきたい視点などをノートに整理しておきたい(30分程度)
授業方法	講義及びグループワーク
履修上の注意	各回の講義資料及び事前課題は原則として前の授業までに配付あるいは提示する。 小レポート、レポートについては第1回の授業時に説明するので、計画的に取り組むこと。 授業回数数の3分の1以上を欠席したものは期末試験の受験資格を失うものとする。

教科書	適宜指示する。
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・『空にかかるはしご 天使になった子どもと生きるグリーフサポートブック』、「空にかかるはしご」編集委員会、九州大学大学院 ・『よく生き よく笑い よき死と出会う』アルフォンス・デーケン、新潮社、978-4-1046-2501-7 ・『死とどう向き合うか』、新版、アルフォンス・デーケン、NHK出版、978-4-1408-1500-1 ・『永遠の別れ 悲しみを癒やす智恵の書』、エリザベス・キューブラー・ロス、日本教文社、978-4-5310-8159-2 ・『悲嘆カウンセリング：臨床実践ハンドブック』、ウォーデン、JW、誠信書房、978-4-4144-1445-5 ・『死別体験 研究と介入の最前線』、シュトレーベ、MSほか、誠信書房、978-4-4144-1454-7 ・『輝く子どものいのち こどもホスピス・癒しと希望』、鍋谷まこと、いのちのことば社、978-4-2640-3348-6 ・『私たちの先生は子どもたち！ 子どもの「悲嘆」をサポートする本』リンダ・エスピー、青海社、978-4-9022-4912-5 ・『赤ちゃんの死へのまなざし 両親の体験談から学ぶ周産期のグリーフケア』、竹内正人（編）、中央法規出版、978-4-8058-3381-0 ・『いのちのおはなし』、日野原重明、講談社、988-4-0621-3793-5 ・『明日をつくる十歳のきみへ 一〇三歳のわたしから』、日野原重明、富山房インターナショナル、978-4-9051-9490-3 ・『尾木ママのいのちの授業』、全五冊、ポプラ社、978-4-5919-1652-0 ・『母と子と家族のためのいのちの授業』、寺田恵子、ライフサポート社、978-4-9040-8432-8 ・『大人のための「いのちの授業」』、鈴木中人、致知出版社、978-4-8009-1159-9 ・『このあと どうしちゃおう』、ヨシタケシンスケ、ブロンズ社、978-4-8930-9617-3 ・『わすれられないおくりもの』、スーザン・バーレイ、評論社、978-4-5660-0264-7 ・『ぐりとぐらとすみれちゃん』、なかがわりえこ、福音館書店、978-4-8340-0633-9 ・『うまれてきてくれてありがとう』、にしもとよう、童心社、978-4-4940-0751-6 ・『ねこのき』、長田弘、クレヨンハウス、978-4-9063-7959-0 ・『くまとやまねこ』、湯本香樹実、川出書房新社、978-4-3092-7007-4 ・『なみだ』、細谷亮太、ドンボスコ、978-4-8862-6515-9

■ ■ 時間割

曜日 時限	月	火	水	木	金	土
I 9:00～ 10:30	【前期】 現代の教養Ⅱ 韓国語ⅡC		【前期】 フランス語ⅡA		【前期】 臨床心理学概論A 心理療法C	
	【後期】 韓国語ⅡD 成人期・老年期の臨床心理学		【後期】 フランス語ⅡB	【後期】 文化人類学		
II 10:40～ 12:10		【前期】 ビジネス中国語A コンピューティングA	【前期】 単語と文のしくみ プレゼンテーションの技法A ジェンダーの心理学 (遠隔) 阪神デザイン論 (遠隔)			
	【後期】 日本文化を学ぶ (遠隔)	【後期】 ビジネス中国語B コンピューティングB 教育・学校心理学	【後期】 プレゼンテーションの技法B 青年期の臨床心理学	【後期】 早期英語教育基礎		
III 13:10～ 14:40	【前期】 日本語教授法応用A	【前期】 キリスト教と諸宗教 英語学入門A 英語コンピュータ特論A	【前期】 音韻・表記の基礎知識	【前期】 古典文学の研究	【前期】 日本語音韻史 (遠隔)	
	【後期】 日本語教授法応用B	【後期】 英語学入門B 英語コンピュータ特論B 心理療法D ファッション史 インテリア史	【後期】 文法の基礎知識		【後期】 日本語文法史 (遠隔)	【後期】 個別の教育支援計画論
IV 14:50～ 16:20		【前期】 英語コミュニケーション概論A アジア文化入門A ジェンダーとファッション	【前期】 心理療法A (遠隔)			
	【後期】 日本書道史 (遠隔) 対人コミュニケーション論 (遠隔)	【後期】 キリスト教の歴史 英語コミュニケーション概論B アジア文化入門B	【後期】 心理療法B (遠隔)		【後期】 社会言語学の基礎 子育て支援の心理学	【後期】 特別支援教育と共生社会
V 16:30～ 18:00			【前期】 社会心理学 障害者・障害児心理学			
			【後期】 人間関係論			

注)教室は、開講時にお渡しする「授業公開講座受講のてびき」にてご案内いたします。

■ ■ 注意事項

- 前年とほぼ同じ授業内容の科目もあります。再受講を希望される方は、授業内容を確認の上、受講してください。
- シラバスは本要項記載のものより、多少の変更がある場合があります。
- 教科書、参考書は各授業の内容をご覧の上、ご購入ください。教科書リストは受講手続きの際にお渡しする「授業公開講座受講のてびき」に掲載します。
- 各授業では学習支援システム「松蔭 manaba」を使用いたします。
- 休講等の諸連絡はすべて「松蔭ポータル」というWEBシステムを通じて行います。詳細については、受講手続きの際にお渡しする「授業公開講座受講のてびき」に掲載しますので、ご確認ください。
- 学生割引・通学証明書等は交付いたしません。また、本学の諸設備の利用について制限が設けられることがあります。
- 学内への自動車乗入れはご遠慮ください。
- 途中で受講を取り消される場合には、必ず教務課までご一報の上、授業公開講座受講生証をお返してください。
- 授業公開講座受講生としてふさわしくない行為があると認められる場合、その受講をお断りすることがあります。
- 対面授業、遠隔授業があります。各科目の授業内容・授業計画に掲載されている「授業方法」をご覧ください。

1 社会人特別編入学制度

(女性のみ)

変化の激しい時代の中で、さらなるスキルアップを目指したい、あるいは家庭生活も落ち着き、大学で学び直したいと希望しておられる方々に、本学学生とともに、世代を超えて互いに啓発し、学びあえる場を提供することを目的としています。(2022年4月1日現在で満35歳以上の方が対象。)学費は社会人特別編入学の減免措置を全員に適用し、学びやすい設定になっています。詳細は、4月中旬以降、ホームページでお確かめください。

■問 合 せ:神戸松蔭女子学院大学 入試・広報課 TEL.078-882-6123

2 科目等履修生制度

(女性のみ)

本学では、1993年度より科目等履修生制度を設けて、生涯学習の推進を図り、広く一般の方々に学修の機会を提供しております。

科目等履修生制度は、大学が開設する授業科目の中から特定の授業科目だけを履修し、試験等に合格した場合に本学の正規の単位が授与される制度で、履修期間は1年以内です。

短期大学を卒業した方および大学において2年以上在学し、62単位修得した方が、この制度により大学の科目等履修生として修得した単位を加算することにより、学位授与機構の修得単位の審査および学修成果・試験の審査を経て、学士の資格が取得できるようにもなっています。学位の取得に関しては「独立行政法人 大学評価・学位授与機構」の

ホームページでご確認ください。

■出願期間:1期 2021年2月22日(月)~3月15日(月)【全科目対象】

2期 2021年7月1日(木)~7月30日(金)【後期科目のみ対象】

■問 合 せ:神戸松蔭女子学院大学 教務課 科目等履修生係 TEL.078-882-6133

3 神戸松蔭公開講座

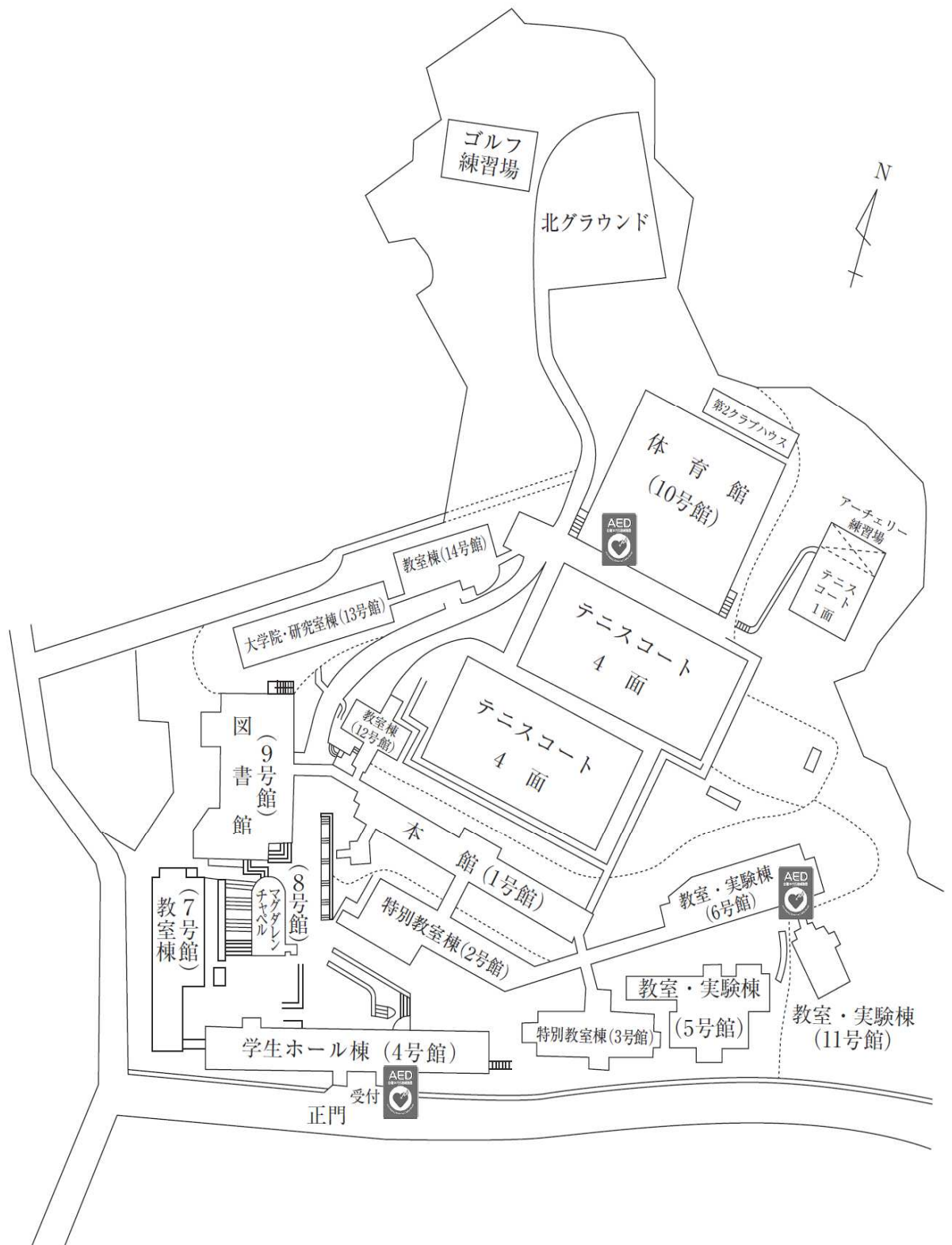
★無料・申込み不要(男女不問)

本学では、大学および大学の付置する諸研究所・機関等の研究・教育の成果、および本学の持つ知的・教育的資源を地域に還元し、地域社会に根ざした大学を目指して各種の公開講座を開催しています。

詳細は4月中旬以降、ホームページでお確かめください。

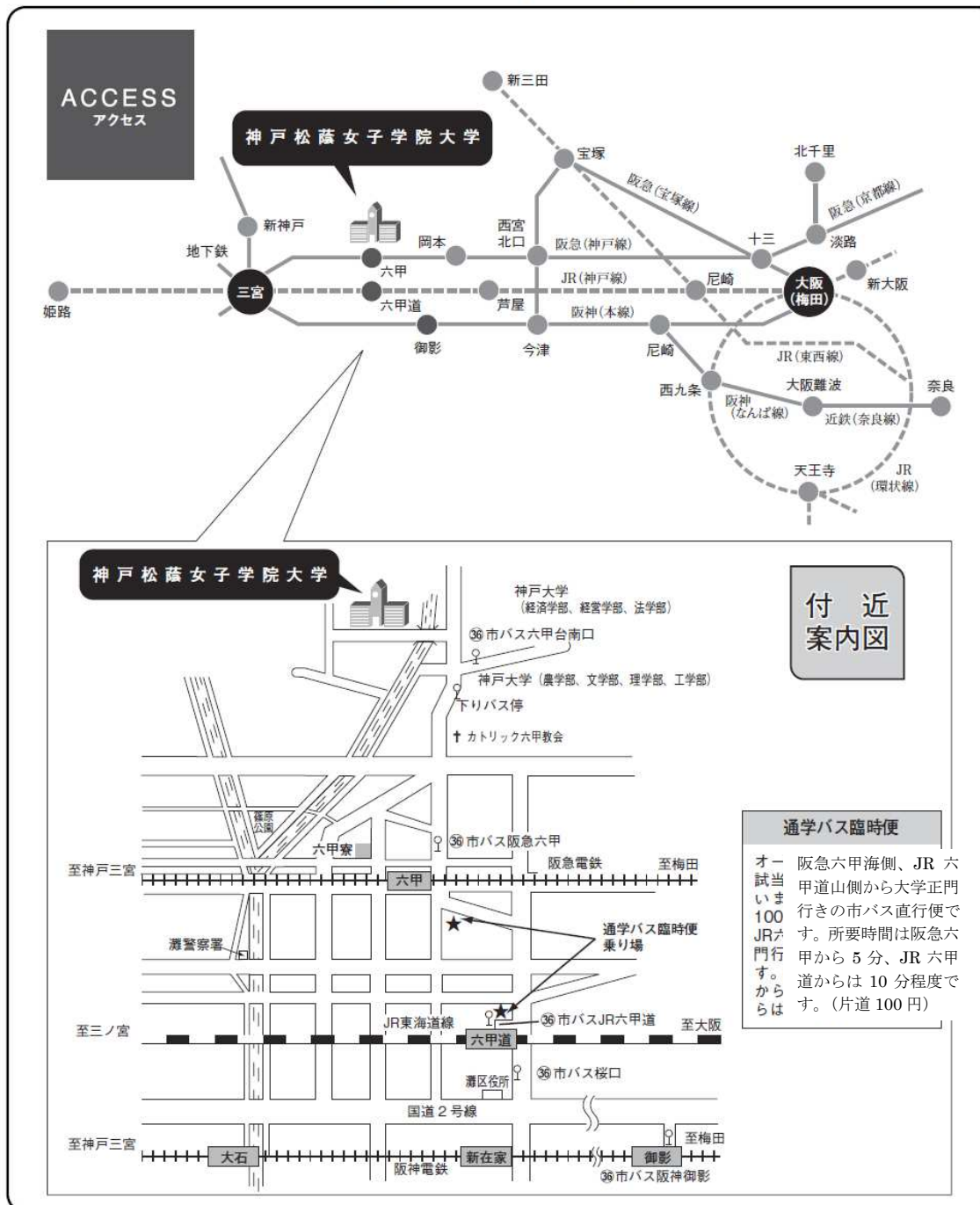
■問 合 せ:神戸松蔭女子学院大学 企画課 TEL.078-882-6159

■ ■ 学内案内図



■ ■ 本学の位置及び交通機関

神戸市灘区篠原伯母野山町1-2-1



大阪（梅田）から最寄りの駅までのアクセス

- 阪急梅田駅から岡本駅まで特急で約20分、普通に乗り換え阪急六甲駅まで約5分。
- JR大阪駅から六甲道駅まで快速で約23分。

神戸（三宮）から最寄りの駅までのアクセス

- 阪急神戸三宮駅から阪急六甲駅まで普通で約7分。
- JR三ノ宮駅から六甲道駅まで快速で約4分。

最寄り駅から大学までのアクセス

- 阪急六甲駅から山側へ徒歩約15分。
- 阪急六甲、JR六甲道、阪神御影各駅から市バス36系統鶴甲団地行乗車、六甲台南口下車、山側へ徒歩約5分。

〒657-0015 神戸市灘区篠原伯母野山町1丁目2番1号

神戸松蔭女子学院大学

教務課 TEL 078-882-6133

公式ホームページ URL <https://www.shoin.ac.jp>